

北海道釧路湖陵高等学校（管理機関：北海道教育委員会）【Ⅱ期3年目】の
中間評価結果について

1 中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成がおおむね可能と判断されるものの、併せて取組改善の努力も求められる。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制，成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・SSH推進部が各分掌，各教科と連携して学校全体で取り組み，事業全体を推進できている。
- ・理数科の探究活動において，生徒アンケートできめ細かく変容を捉えている。
- ・運営指導委員会の指摘を改善に生かし，よく取り組んでおり，評価できる。なお，運営指導委員会での議論の内容を詳しく記録に残し，SSH事業全体にどう生かしていくのか，そのプロセスがわかるようにすることが望まれる。
- ・研究計画の核となる理数科の課題研究の充実をいかに図るか，そのために指導体制をどう構築するのか，Ⅱ期目として様々な外部との連携の強化をどう積み上げていくのかなど，ビジョンを明確にしてSSH事業を推進していくことが望まれる。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・理数科では，理科，数学で「SS」を付した科目を設定し，英語，情報にも拡大している。「SS」「KS」を冠した科目がどう展開され，どう課題研究の充実につながるかを明確にして実践していくことが望まれる。
- ・教材開発については，科目全体を通じた教材の開発が期待される。
- ・「芸術と科学」の取組においてより具体的な自己評価を行うことや，課題研究や探究的な活動の評価の充実が望まれる。
- ・生徒が研究計画を提案するEプランの開発は，生徒の主体性を育み学校の活性化につながり，課題研究の定着からEプランにつながる方向性も良く，評価できる。
- ・生徒の自己評価の妥当性を踏まえた，教師からの適切な評価を考察する必要がある。
- ・教科の授業での取組と課題研究での取組の連携について，学校全体での議論を活性化させ実践に移していくことが期待される。
- ・課題研究で生徒の自主性の伸長を図っており，評価できる。ただし，自己評価が極めて低い中核的基礎力・コンピテンスを育成する取組の改善・充実が望まれる。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・理数科の「KSC 科目」の設定で SSH 指導部と各教科担当者が協働する体制がとられ、普通科の「総合的な探究の時間」の探究活動でも全校体制での指導が行われており、評価できる。
- ・課題研究の指導体制を一層充実させ、課題研究の質の向上を図ることが期待される。
- ・普通科の探究活動で地元の市役所等の諸機関と連携している。
- ・教員の指導力向上のため、研究開発課題にある「コンピテンス基盤型教育」の研修を実施するとともに、先進校視察も目的をもって実施しており、評価できる。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・数多くの大学や地域の諸機関との連携があり、評価できる。なお、単発的な行事ではなく、継続的に外部連携を図る仕組みを構築していくことが求められる。
- ・英語でのプレゼンやディベートなど、生徒の英語力向上の取組・成果が充実しており、評価できる。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・様々な教科が「KSC 基礎」に関わり授業を作り上げていく体制となっていることは評価できる。開発した教材を、ホームページ等を活用し、道内・校内にとどまらず、全国的に積極的に発信するとともに、改良を加えていくことが望まれる。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・スーパーサイエンスハイスクール連絡協議会や HOKKAIDO サイエンスフェスティバルを主催し、課題研究の取組状況に関する情報交換や、指導方法や評価の在り方に関する研究協議、成果の共有を行うなど、全道的な視野で学校を支援しており、評価できる。
- ・「SSH 実践事例集」を作成して、SSH 指定校の実践を各公立高等学校に幅広く紹介しており、評価できる。今後、更なる改訂を加えて、情報発信を一層進めることが期待される。成果の普及を更に後押しし、SSH の成果を SSH 指定校以外に広げ、理数探究基礎や理数探究の開設につなげていくような取組が期待される。

宮城県多賀城高等学校（管理機関：宮城県教育委員会）【1期3年目】の
中間評価結果について

1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2 中間評価における主な講評

①研究計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・SSH事務局（G1）を上位組織として、担当分掌会（G2）、実行班（G3）という構造的な組織を作り、全教員のSSH事業への関わりの強化を図っている。
- ・災害科学科はユニークな学科である。その活動を中心に研究を計画して進めているが、理数系への進学が増加していないのが懸念される。
- ・成果の分析・検証において、生徒の自己評価に重点を置きすぎているのではないかと吟味することが望まれる。
- ・保護者の意識や教員の参画意識の向上に向けた一層の取組が求められる。特に、体制を見直した後の教師への意識調査で、否定的・消極的な回答の比率が依然として一定割合を占めており、全校体制が形骸化していないか、検証することが望まれる。また、災害科学科でも、SSHについてあまり知らない保護者が一定割合いることも併せて考えることが望まれる。

②教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・「SS 課題研究（基礎）」と「ESD 課題研究」が並立しているが、全て「SS 課題研究」として取り組むことができるのではないかと、検討が望まれる。
- ・テキストマイニングによる解析は、達成目標に対応したキーワードをどう設定するのか明確にすることが望まれる。
- ・課題研究の質をどう高めていくのか、各取組をどう課題研究につなげていくのか、学校として大きな流れを構築することが求められる。
- ・災害科学科が県における課題研究のパイロットとなるような取組が期待される。
- ・理系を選択する生徒をどう増加させていくのかという視点も望まれる。
- ・取組の充実に向けて生徒のポートフォリオをどう活用していくのか、検討を進めることが期待される。

③指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・教員の指導力向上のために他校との連携が多くとられている。
- ・課題研究の教員研修の充実等を通して、参画意識の向上を図ることが望まれる。
- ・課題研究の指導で、教員の負担感を少なくするような取組の充実が望まれる。
- ・災害科学科の課題研究が普通科の課題研究を引っ張っていくような組織体制を構築することが期待される。

④外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・被災地の特性を踏まえ、災害を核として、他校や地域との連携を特色あるものとし、積極的に行っており、評価できる。普通科の取組も充実させることが期待される。
- ・自然災害共同研究を実施している点は、注目される。
- ・英語力にまだ課題があるとのことなので、改善に向けた一層の取組が期待される。
- ・インドネシア共和国の生徒との交流について、具体的に課題研究に関して意見交換するなど、課題研究の質を高めることにつながる取組が期待される。
- ・科学部の人数を増加させるとともに活動の幅を広げ、様々な取組の核となる存在にしていくことが期待される。

⑤成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・災害を核として、他校等との共有が積極的に行われている。
- ・取組の充実に向けて生徒のポートフォリオをどう活用していくのか、検討を進めることが期待される。

⑥管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・教員の指導力向上に向けた一層の取組が期待される。
- ・探究活動等指導者養成講座を企画・実施しており、県内の各高等学校から一定数の教員が参加していることは評価できる。このような取組を充実させ、県内の課題研究を充実させることが期待される。

秋田県立秋田中央高等学校（管理機関：秋田県教育委員会）【Ⅱ期3年目】の
中間評価結果について

1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2 中間評価における主な講評

①研究計画の進捗と管理体制，成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・成果と課題の分析方法がアンケートのみであり，他の評価方法も導入が求められる。
- ・「課題の発見」を意識して計画を進めている点は評価できる。ただし，課題発見力に関する分析・評価が不十分である。教員のどのような指導が効果的だったか，その向上で課題研究の質がどう高まったのかを分析して明確にすることが望まれる。
- ・企画部門と実施部門，特に実施部門の構成，学年との関わりを見えるようにすることが望まれる。
- ・探究活動が理系中心であること自体ではなく，理系を中心とつつ，どう指導者や文系生徒にも広げ，全校体制を作っていくかといった観点で，吟味が望まれる。
- ・取組の目的・目標と成果の分析が整合しているか，吟味が望まれる。
- ・自分で課題を発見することと課題研究のテーマ設定を早期にできることとの混同が教師にないか，それが課題発見力の育成を妨げていないか，吟味が望まれる。

②教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容の達成が不十分であり，取組の見直しを要する】

- ・課題研究を3年間を通して教育課程に位置付けており，充実させる方向性が教育内容に認められ，評価できる。
- ・理系・文系での課題研究等の特徴を分析的に捉え，相互補完や協働の在り方を追究することが期待される。また，課題研究の進展を図るために，第1学年のミニ課題研究の課題発見力の育成のための中間発表の回数増加の検討等も期待される。
- ・学校設定科目「躍進」のⅠ～Ⅲの探究活動を中心にして，研究発表・論文作成を目指して各教科・科目と連携を図っており，評価できる。ただし，数学，理科にSSHとしての特色をどう出すか，検討が望まれる。
- ・課題研究の単位数や，「躍進Ⅰ」の探究期間，中央型探究授業への理科，数学の関わりが十分かなどについて，検討が望まれる。選択履修「躍進ⅡC」を加えることの効果と選択しない生徒の成果なども引き続き検討することが望まれる。

- ・授業改善については、SSHとして更なる工夫改善が望まれる。

③指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成が不十分であり、取組の見直しを要する】

- ・課題研究を充実させようという方向性は、指導体制に認められ、評価できる。ただ、生徒の課題発見力の育成として適切な指導体制か、吟味が望まれる。
- ・学校設定科目「躍進」は学年主導で行われる企画が多く、担任・副担任をはじめ、学年全体で推進している。
- ・課題研究等を通して教科間の連携や、一部、大学教員との連携を実施している。学校としてTTやメンターなどでの外部人材の活用を進めていくことが期待される。

④外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・大学との連携協定を第Ⅱ期でも継続し、密接に連携しており、評価できる。高大接続の開発の検討も期待される。
- ・地域課題の研究は、その成果が地域貢献にも繋がるような発展的な取組になるよう工夫することが期待される。
- ・躍進探究部が、SSH事業へ積極的に参加し、研究活動に励み、研究発表会や学会への参加、論文投稿を行い、校内の探究活動の牽引役となっており、評価できる。

⑤成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・教職員の変容の見える化やモデル化の成果を普及するための公開が望まれる。
- ・ホームページを一新し、閲覧や検索を行いやすいものにし、SSHの項目をスマートフォンでも読みやすいものとした点が評価できる。一方で、SSHで実施している特色ある教材等、具体的な資料の公開も望まれる。研究成果の共有・継承が理科以外でも行われているか、吟味が望まれる。

⑥管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・県教育委員会として、スーパーサイエンスプログラムで様々な取組を実施しており、評価できる。SSH指定校の探究力の伸長や指導のあり方の成果が、県内の他の高校に具体的にどう浸透し、生かされているかの評価も検討が期待される。
- ・県教育委員会は、当該指定校に対して博士号教員や課題研究等の指導力のある教員を配置し、人的な支援を行っており、評価できる。

秋田県立横手高等学校（管理機関：秋田県教育委員会）【I期3年目】の
中間評価結果について

1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成が不十分であり、取組の見直しを要する】

- ・取組体制として「『自助』活性化委員会」の創設等の改善を図り、普通科の取組にも拡大している点が評価できる。今後、全校的な取組となることが期待される。
- ・統計学・統計教育の側面がかなり強調されているが、SSHとしての深化・拡充が期待できるか吟味することが望まれる。
- ・多くの教員のSSH事業の実施に関する意識がまだ不十分ではないか。
- ・理念は評価できるが、実際の生徒への指導に落とし込む一層の検討が望まれる。
- ・MDS、FTDC等の様々な用語が使われているが、本当に必要か、吟味が望まれる。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成が不十分であり、取組の見直しを要する】

- ・「MDS基礎」が、その後の「MDS探究」、「MDS発展」にどう結び付くかが不明確である。研究開発として、3年間を通した課題研究の指導計画や、それを支える多様な教科・科目等との関連性等を明確、堅実なものにすることが望まれる。
- ・教育内容が教員主体で、生徒が主体的に取り組む内容になっていないのではないかと、よく吟味することが望まれる。
- ・「MDS探究」が「保健」の代替として適切に行われているか、検証が望まれる。
- ・課題研究での教科連携や大学などとの連携がある点が評価できる。
- ・課題研究の内容や質の向上に多様な評価方法を活用している。例えば、課題研究や探究活動における生徒の資質・能力を階層的に捉え、多様な評価方法がその資質・能力の育成にどう効果を及ぼしているのかといった分析等も期待される。
- ・ICT活用による探究活動の推進と進学への肯定的プロセスについての分析が一層進むことが期待される。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成が不十分であり、取組の見直しを要する】

- ・普通科の「総合的な探究の時間」で生徒が興味・関心に合わせてテーマを自由に設定し、それに即して最も適した教科担当者が指導に当たる体制をとっている。
- ・教員が教えることが中心の指導体制となっており、生徒の主体性を育成するようなものとなっていない点は改善が求められる。
- ・「MDS 基礎」等の授業展開、教員配置等はどうか、時間割上は情報科と数学科の教員が協力して担当する体制とはどのような工夫か、明らかにすることが望まれる。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・他県の高等学校等との SSH 事業を含めた交流を拡げている点は評価できる。その成果としての課題研究の質の向上が期待される。
- ・学校設定科目「MDS 基礎」の「FTDC」等での活動では地域との連携を図っており、評価できる。一方、第2学年以降の地域との関わりの検討も期待される。
- ・地域の高等学校や小中学校との関わりが見えないが、そうした取組も期待される。
- ・毎年タイ王国に生徒を派遣して、英語での研究成果の発表や交流を行うなどしている。また、他校の ALT に来校してもらい、課題研究の内容を英語で発表する機会を設ける計画をしている。国際性に関する生徒の変容を明らかにすることが望まれる。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・成果等の公開は、秋田県内だけでなく、県外への拡大を含めて一層望まれる。
- ・第2年次の「研究開発実施報告書」に、課題研究の実施経過やそれに伴う生徒の変容についての記載がほとんどなく、このことから、事業の目的や目標が、関係教員に適切に把握されているか疑問がもたれるところであり、改善が望まれる。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成が不十分であり、取組の見直しを要する】

- ・当該指定校に対して博士号教員や課題研究等の指導力のある教員を配置し、人的な支援を行っており、評価できる。博士号教員の加配等による成果と課題を明らかにして、県内外に発信することも期待される。
- ・県として SSH の合同発表会や、大学と連携した教員研修や出前授業の実施等を行っている。

茨城県立緑岡高等学校（管理機関：茨城県教育委員会）【Ⅱ期3年目】の
中間評価結果について

1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2 中間評価における主な講評

①研究計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・「SSH委員会」が全体を統括し、校務分掌に位置付けた「理数部」でSSH各事業の企画・立案・検証を行っている。
- ・普通科の生徒への意識調査での第2学年の探究心の低下に関する検証が望まれる。
- ・全ての教員がアドバイザーとして活動計画や調査・検証の方法、探究の進捗状況にアドバイスや評価を行っていて、全校体制でSSH事業を推進している。
- ・全校生徒が探究的な学習活動を行い、ループリック評価、意識調査等による研究成果の分析がなされており、評価できる。

②教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・課題研究として、「SP科学」（普通科・理数科）、「SP探究」（普通科）、「SE課題研究」（理数科）を設定し、様々な探究を全校体制で行っており、評価できる。ただし、活動内容に照らし単位数が十分であるか、吟味することが望まれる。
- ・全生徒の科学的素養として再生医療を基盤としている理由や、その活動と第2・3学年の活動とのつながりは、より具体的に示すことが望まれる。
- ・通常の教科間の連携は、課題研究以外では、組織的には少ないように見受けられる。一層の充実が望まれる。授業改善も今後を期待する。
- ・教育課程の特例の対象となる学校設定科目について、内容重視で問題演習が多く見られるなど、特色が分かりにくい点は改善が求められる。
- ・「SP探究」で、科学的に考察することに関する共通理解が十分に図られているか。
- ・「SS数学 α 」、「SS物理 α 」等の教育課程の特例の対象の科目の特徴は何か。

③指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・普通科第2学年の「SP探究」で、全ての教員が課題研究に関わるようになったこと

は評価できる。知見を他校にも広げることが期待される。

- ・文系教科の教師の SSH を意識した関わり方の一層の進展が望まれる。
- ・理数科「SE 課題研究」では外部人材のチューターを導入している。また、普通科「SP 探究」では、学年団がコーディネーターを担当し、全ての常勤教員がアドバイザーを担当している。それぞれ少人数グループでの探究活動を実施している。
- ・生徒の主体性を考えるともう少しテーマが出てくるのではないかと、吟味が望まれる。

④外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・他の SSH 指定校や隣接校と連携した「英語による科学研究発表会」は、毎年開催され、発表数も増えていて、評価できる。
- ・「いばらきサイエンスコンソーシアム」のハブ校になっていることも、評価できる
- ・大学との連携では、第1学年の「SP 科学」の「再生医療分野」において、大学教員による講義、実習が行われ、これからの事業展開が期待される。
- ・大学の研究室を訪問して講義や実験を行う「サイエンスラボ」を実施しており、評価できる。ただ、日数増や、内容やテーマの拡大等、取組の質的な高まりが望まれる。企業研究者による「最先端科学講演会」も同様である。
- ・地域の小中学校、近隣の高等学校等との交流の充実についても検討してはどうか。

⑤成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・研究成果の共有・継承の点でも、SSH の取組に全教員が関わる形で行っており、評価できる。
- ・SSH 通信の発行・配布、ホームページの活用による研究成果の発信、他校の視察受入れ等、成果の対内外的普及を図っている。
- ・SSH の研究開発の成果の校内の共有・継承については改善・充実が求められる。
- ・Ⅱ期目として特色ある教材等のホームページへの掲載の充実が求められる。

⑥管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・常勤講師の加配や、SSH に意欲的で力のある理科・数学等の教員、理系学部出身者である ALT の配置を人的支援として行っており、評価できる。
- ・大学との連携による探究実験講座事業も、実践的で、評価できる。
- ・大学との共催で「茨城県高校生科学研究発表会」を開催し、生徒に発表の場を提供するとともに、探究的な学習活動に対する指導の広がりにも寄与させている。
- ・SSH 事業の成果の県下への一層の波及が期待される。

群馬県立前橋女子高等学校（管理機関：群馬県教育委員会）【Ⅱ期3年目】の
中間評価結果について

1 中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成が可能と判断される。

2 中間評価における主な講評

①研究計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・課題研究に係る取組のほか、通常授業の改善に関する研究も進展していて成果が期待できる。SSH事業全体の趣旨と、今回の事業の研究開発の目的、目標をよく踏まえて効果的に研究計画を実施し、生徒の変容という面でも高い成果を上げている。
- ・本事業を実施する中で、生徒の理系進学への意欲を高めることができている。また、本事業を通じて入学希望者に理系進学への夢と希望を与えていると認められる。
- ・学校の管理体制は、校務分掌に「部」として位置付けていないが、日常的に話し合いなどをもつことができる体制になっているか、吟味が望まれる。

②教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されていると思われるもののうち、特に程度が高い】

- ・課題設定に関する指導の工夫も「マジックワード」をなくすという問いかけの姿勢を教員が共通理解することで成果が出ており、他の教科にも波及させている。
- ・課題研究のテーマに生徒自身の疑問や個性がよく表れており、生徒の主体的な取組とそれを成長につなげる適切な指導等が行われていると推察される。
- ・使い勝手の良い統計解析用の表計算ソフトのファイルの開発も成果として評価できる。t検定や相関分析の考え方が生徒に定着するような指導が期待される。
- ・学校設定教科・科目もいろいろ工夫されている。ただし、「SS探究」と「科学的探究Ⅲ」の選択者は多くない。この人数をもう少し増やすような取組が期待される。
- ・通常の教科の授業でも探究型へ向かう取組はされているが、例えば、取り組みやすい教科・内容に留まっていないか、探究型の授業を広げていくことが期待される。
- ・「科学的思考力テスト」の開発も、実例ベースでの内容開発になっていて生徒の気付きや反省にも役立つと考えられ評価でき、更なる改善も期待できる。テスト結果で誤認識率の高い内容項目については、例えば、生徒間の議論で正しい認識をもつようなフィードバックの仕組みの検討も望まれる。

③指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・課題研究を通しての指導方針が徹底していることで継続性が担保されている。
- ・全教員が関わる指導体制が確立している点が評価できる。
- ・学年の成果発表会の審査を自校で行おうと計画している。しっかり活動を見直して改善していこうとする姿勢が評価できる。成果の共有・継承の面でも評価できる。
- ・教員の指導力向上も良く考えている。教員間の相互研修も評価できる。実践の場だけではなく、意図的な研修会も考えられないか、検討が期待される。

④外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されていると思われるもののうち、特に程度が高い】

- ・大学との単位認定など高大接続も進めている。国際性に関する取組も充実している。
- ・大学と連携した「高大接続事業研究支援プログラム」の活動や、関東圏内の女子校6校との共同事業の実施等は、継続により、より多くの成果が期待できる。
- ・大学との連携は、大学に依存することなく、高大双方に効果的な連携となっている。
- ・生徒のキャリア教育も見据えて民間の企業との連携の検討も期待される。
- ・語学力の育成が通常の教科の中で行われており、海外研修が語学力の育成を中心にしたものではなく、研究発表に主眼を置いたものであることも評価できる。

⑤成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されていると思われるもののうち、特に程度が高い】

- ・各事業の教材や成果物をデータとして蓄積・共有し、いつでも閲覧できるようにしている点は評価できる。今後の使い勝手の向上も期待される。
- ・ホームページや広報誌による活動の発信や、公開発表会を積極的に実施している。
- ・課題研究の指導方法について、教員が関与しすぎない指導方法を明確に文章化しており、その普及に積極的に取り組むことが期待される。
- ・各事業の担当者マニュアルは、できる限り多くの教師が事業に関わるために有効だと考えられる。ただし、型にはまった取組だけにならないよう留意が望まれる。

⑥管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・SSH指定校への1名の加配や教員公募等、人事上の支援を実施している。
- ・課題研究についての指導者研修を実施している。
- ・管理機関としても、県全体にSSHの成果を伝えていくことも期待される。

埼玉県立越谷北高等学校（管理機関：埼玉県教育委員会）【1期3年目】の
中間評価結果について

1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2 中間評価における主な講評

①研究計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・教員の負担増について、働き方改革により、解決に向けた積極的な取組が望まれる。
- ・年次進行計画に沿った研究推進が図られていて、前年度の評価によるフィードバックも行われており、成果が期待できる。
- ・「科学探究基礎」の履修者の増加を図ることも大切ではないか、検討が望まれる。
- ・生徒の変容を調べるための研究も進展しており、成果が期待される。
- ・教科間の連携を中心に、学校の教員が一致協力してこの事業に取り組むことができる体制を構築することが望まれる。

②教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・課題研究に対する取組は、普通科では第1・2学年ともに希望制だが、時間割上の問題もあると見受けられ、それぞれの人数の改善が望まれる。
- ・「校内実験合宿テキスト」の開発には期待がもてる。実験等の計画初期からセンシングやICTを活用した計測技術、データ処理と整理等も計画する仕組みにして、測定回路の構成やグラフ化処理技術の基礎を学習できると、結果の考察等に多くの時間がかけられるのではないかと、検討が期待される。
- ・理数科では良い取組がなされており、生徒の積極的な参加がうかがえる。
- ・「単元型教科間連携」も「テーマ型教科間連携」も、既存の各教科の内容を当てはめているだけになっていないか、各教材とテーマの一層の連携が望まれる。
- ・PPSAの質問項目も、項目が指標として妥当か、議論を重ねることが望まれる。

③指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・教師全員の指導力を向上させるために一層の取組が求められる。
- ・校内の指導体制が組織化されている点は評価できる。ただし、理数系の教員の関わ

る会議が多く、真の全校体制に向かうことが期待される。

④外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・自然科学系の部活動の参加者が多く、活発に活動していることは評価できる。
- ・パソコン部等については、外部指導者の助力を得て可能性を広げて、SSHとしての活動領域を見つけ出していく研究なども考えられるのではないか。
- ・大学や企業との連携が進んでいることがうかがえる。

⑤成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・他の高等学校など、外部との交流、働きかけに工夫の余地があると思われる。
- ・学校内では取組の共有は、おおむねなされている。
- ・開発した教材等の成果の普及については、あまりできておらず、資料の精査を進め、他校とも共有ができるように努力していくことが望まれる。

⑥管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・教員加配は評価できる。
- ・県の施策におけるSSH指定校の位置づけを明らかにすることが望まれる。
- ・埼玉県内のこれまでのSSH指定校の実践と成果を、越谷北高校に合致する部分で上手に活用していくことが期待される。
- ・埼玉県全体の理数教育の底上げのために、様々な機会を用意している。SSH指定校の研究成果の発表の機会が多くあり、大学の研究者に意見をうかがえる取組をすることは、評価できる。

学校法人芝浦工業大学 芝浦工業大学柏中学高等学校（管理機関：学校法人芝浦工業大学）
【Ⅱ期３年目】の中間評価結果について

1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2 中間評価における主な講評

①研究計画の進捗と管理体制，成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・校内分掌の研究部がSSHの運営にあたり，4つの柱（TASK I～IV）で研究開発が組織的に行われている。中学校での取組を高等学校での取組に十分生かしているかなど，中高の接続を意識して今後の方向性を議論することが期待される。

②教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・数学，理科について，単位数を増加し，理数重視の対応を図っている。今後は更なる充実に向けて，その内容の改善・工夫が期待される。
- ・課題研究は，学校設定科目と総合的な探究の時間を合わせて最大7単位を修得することができる。ただし，第1学年は全員が履修するが，第2学年では一部となり，第3学年では教育課程上の設定がない。第3学年での課題研究にも積極的に取り組むことを含め，改善が期待される。
- ・中学校から課題研究に対応し，生徒の研究のためのホームページを作成し，研究テーマの策定等に利用しており，新型コロナウイルスの感染拡大の状況下でも有効だと考えられ，評価できる。
- ・課題研究を核としてどう生徒の資質・能力を育成するのかなど，一つ一つの取組を有機的につなげていくことが求められる。
- ・テーマ探しの手引き等の作成は評価できる。改訂を繰り返し，様々な企画や授業とのつながりを図り，生徒が主体的に取り組むことを手助けできるような手引きへと改良を重ねていくことが期待される。

③指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・公開研究授業を5教科に広げるなど，全教科の探究化のための取組を進めており，評価できる。

- ・校内での教員の連携は、数学・理科を超えて他教科に広がりつつあり、課題研究授業担当者が20名を超えるなど、より多くの教員がSSHに関わるような工夫が見られる点も評価される。教員のSSHに対する評価も肯定的である。
- ・設置大学の協力や卒業生の活用を進めており、評価できる。附属校の強みを生かす取組が期待される。
- ・「GS I (II)」, 「SS I (II)」の指導体制は、生徒が自ら課題を設定して主体的に取り組むために十分であるか、検討が望まれる。

④外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・設置大学や企業等との連携が行われている。外部の企業との連携を更に充実させることが期待される。
- ・科学部は、各コンテストで優秀な成績をおさめているが、高等学校における人数が中学校に比べると少ない。指導体制の充実を図り、活性化することが期待される。

⑤成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・SSHの活動の様子、教材等の成果物をホームページ上で多く公開しており、評価できる。
- ・探究活動の指導方法を共有するための研修を実施するなど、校内における成果の共有が図られており、評価できる。
- ・教員間の授業実践の共有の場として研究授業を実施しているが、どのような実践がされているのか、どのような議論が展開されているのかを全体で確認しながら取り組むことが望まれる。
- ・公立高等学校や他県への成果の普及にも取り組んでいる。

⑥管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・法人内で中高大連携推進委員会を定期的に開催している点は評価できる。大学との連携を更に進め、生徒にとって附属校の強みを享受できるようなつながりを積極的に構築することが期待される。
- ・学習環境、研究環境の整備によく取り組んでいる。また、ICTの支援員を校内常駐で配置している点も評価される。
- ・海外の高等学校との交流の準備として、大学の研究室の留学生を活用している。

東京都立立川高等学校（管理機関：東京都教育委員会）【I期3年目】の
中間評価結果について

1 中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成が可能と判断される。

2 中間評価における主な講評

①研究計画の進捗と管理体制，成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容が十分達成されている】

- ・「SSH部」について，毎年担当を増員して体制を強化するとともに，今年度から「探究部」へと名称を変更し，理科や数学科だけでなく，全校で取り組む体制が整いつつある点が評価できる。
- ・全職員が探究学習班・国際理解教育班・外部連携班に所属し，全校的な計画実施体制がよく整っており，研究計画が順調に進められている。
- ・成果と課題の分析について，よく取り組んでいるが，コンピテンシーや英語に関する評価をより具体的に展開するなど，更に研究を進め，開発プログラムに生かしていくことが期待される。
- ・将来の高いレベルの研究者養成を見据えた事業実施が進められている。

②教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容が十分達成されている】

- ・テーマや追究の仕方・方法だけでなく，探究科目を通してどのような能力や態度を育成していくかも，事業の中で検討していくことが期待される。
- ・「本物体験」として，フィールドワーク等を重視して，課題研究などへの課題意識へとつなごうとしている点が評価できる。今後，個別の取組を学校全体としてまとまりのある形に整えて学校としての方針を明確にすることや，「本物体験」を探究科目と更にうまく関係付けることが期待される。
- ・全校生徒に理系・文系問わず，理科基礎4科目と数学ⅠA・数学ⅡBを必修にするといったカリキュラム編成を実施している。
- ・SSHクラス以外においても，課題研究での学びを生かして探究的な活動ができるよう，科目間の協力と連携を指導体制も含めて検討していくことが期待される。
- ・課題研究に1年生全員が個人テーマで取り組んでおり，そのテーマ一覧から，自ら考える要素が高い生徒中心の課題研究になっていると認められる。
- ・課題研究では，既存の書籍をベースとしているが，後々は，学校独自のスタイルを確立することが期待される。

- ・ 課題研究の成果を研究要綱集としてまとめ、学習資料として活用しているのは継続的に探究科目を進めていく取組として評価できる。

③指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・ 第1学年の探究科目は、全生徒が幅広いテーマで実施し、アドバイザー制も含めて、全校として取り組む体制ができていることは評価できる。
- ・ 第1・2学年の交流会を設けて、相互に問題意識の向上を図っている。
- ・ 探究科目について、主担当の教員に加え、アドバイザーの教員やTA、JETも入り、複数名で充実した指導ができるようにしている点が評価できる。TAを増員中であるなど更なる充実に向けても取り組んでいる。なお、薬品等を使用するものについては、安全面の観点から十分な体制であるかにも留意することが望まれる。

④外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されていると思われるもののうち、特に程度が高い】

- ・ 他校とのコンピテンシー評価に関する連携にも取り組んでいる。
- ・ 「小中学生理科教室」の開催、多摩地域「科学の祭典」への出展、「化学実験教室」等を行っている点は評価できる。
- ・ 理数系部活動は、参加者も多く、かつ、増えており、学会等の外部研究会の発表者や科学オリンピック等の参加者も増えるなど、活動が精力的である。今後、これらの活動と探究科目との相乗効果が見られることが期待される。

⑤成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・ 研究発表会を外部に公開しており、多くの参観が得られている。今後進めていく中で成果を更に公開していくことが期待される。
- ・ 開発教材や、全校体制の課題研究の運営方法やその評価、探究活動を行っている通常の教科の取組等について、公開の充実が望まれる。

⑥管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・ 本実施校を都立で初めての理数科とすることを計画するなど、本事業と一体になった理数教育の推進を進めており、支援が行われている。探究活動等の都内の高等学校への定着や、教員の指導力向上につながる仕組み作りへの取組が期待される。

学校法人玉川学園 玉川学園高等部・中学部（管理機関：学校法人玉川学園）【Ⅲ期3年目】の
中間評価結果について

1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制，成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・Ⅲ期のSSH事業として理科・数学に特化したカリキュラム開発や課題研究の指導と評価の一体化についての研究開発により具体性が求められる。特に，「SSHの課題研究で開発されたプログラムが理系の課題研究を越えて汎用性を持つかを測る最適の対象」であるかを説明できていると言えず，改善が望まれる。
- ・校務分掌の「SSH担当チーム」による企画・運営，「SSH実行委員会」によるSSH事業の取りまとめ等により，多くの教員が参画する組織体制を敷き，円滑に推進・管理していると見受けられる。
- ・理系の生徒数が少ない点は，改善が求められる。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・選択履修のものについても，それぞれ選択者が少ない点は，改善が求められる。
- ・課題研究・探究活動の充実が見えにくく，改善が求められる。科学的に探究しているかに関する評価は，改善が求められる。
- ・「総合的な探究の時間」と「自由研究」，「SSHリサーチ」の関係やそれぞれの内容，数学とSSH活動との関係等が分かりにくい点は，改善が求められる。
- ・今期のテーマである主体性の育成を測るために，主体性ペンタゴンに沿ったルーブリック，OUTCOMEシート，主体性アンケートを開発・活用し，各教育内容プログラムの評価をしており，評価できる。ただし，生徒一人一人の課題研究のテーマ設定などで育成すべき能力とどう関係するか議論が必要だと思われる。
- ・独自の教育プログラムを中学校第2学年から高等学校第3学年まで実施し，高校生で課題研究を発展させ，社会へ発表の場を広げていく理系の教育課程となっている点は，評価できる。
- ・報告書の研究テーマ一覧に数学の課題がない点等は，改善が求められる。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・毎週木曜に実施している「主体性育成ミニ検討会」や、「探究型学習研修会」、「主体性研修会」など教員の指導力向上を目的とした各種研究会は、充実している。
- ・「理系現代文」、「科学英語」の教科担当の連携、「データサイエンス」の中高教員の連携、「SSH リサーチ脳科学」、「SSH 科学」の高大連携の指導は評価できる。「SSH リサーチ」では、卒業生による指導もある。
- ・教員の指導力の向上のため、学外のシンポジウムプログラムに参加している。
- ・生徒対象の授業力アンケート調査結果をフィードバックする授業改善等を実施し、教員の指導力向上に努めている。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・サンゴ研修の拠点地域の自治体との包括連携協定の締結等、外部連携に積極的に取り組み、成果を具体的にあげている点は、評価できる。一方、サンゴ以外の課題研究における連携については改善・充実が求められる。
- ・サイエンスキャリア講座で外部の企業と連携し、企業見学や講演会を実施している点が評価できる。
- ・理科系クラブ活動は活発であり、各種発表会、コンテストに積極的に挑戦していることは、評価できる。数学分野のクラブ活動の後押しも期待される。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・校内のイントラネットに SSH に関する各活動報告を掲載しているほか、教員の交流や公開授業で共有・継承を実施しているが、今後一層の改善・充実が求められる。
- ・外部の学会での発表や、本校主催の生徒研究発表会、大学の月刊誌での成果の発表、特色ある教材等のホームページでの発信等による成果の普及・発信に積極的に取り組んでおり、評価できる。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・学園教学部が管理機関として推進役になり、大学との支援の橋渡しを実施、円滑な運営を支えており、評価できる。
- ・管理機関の責任者に大学の研究支援部門の経験者、担当者に教育支援部門の経験者を配置するなど、適切な支援が受けられる体制にしている。
- ・「サンゴ研修」では、地元の自治体や漁協、研究機関等に SSH 活動を公開するため、管理機関が中心になって調整を進めている。

学校法人中央大学 中央大学附属高等学校（管理機関：学校法人中央大学）【I期3年目】の
中間評価結果について

1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・理系進学者の比率が全校生徒の1割程度であり、SSH事業として、原因を検証し、改善することが望まれる。
- ・法人のSSH運営委員会で運営方針を決定し、校内のSSH小委員会で具体的な計画を立案し、その上で、教員全員に周知する組織体制としている。
- ・各事業が個別に進められている傾向がないか、吟味することが求められる。
- ・コンピテンシー自己評価アンケートを開発して、定期的にアンケートを実施して生徒の自己評価の変容を把握し、成果の分析をしている。教員対象の振り返りアンケート調査も実施し、事業の実践を改善する材料としている。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成が不十分であり、取組の見直しを要する】

- ・理科・数学に特化したカリキュラム開発が「Project in Science I（Ⅱ）」以外にあまり認められず、「Project in Science I」では海外研修の研修旅行、「Project in Science II」では中央大学理工学部との内部での接続が強調されている。全体的にSSH事業としての課題研究の位置づけが弱いのではないか。
- ・探究活動に調べ学習のような印象を受ける。日常的な探究活動の充実が求められる。
- ・コンピテンシー・ベースの観点別評価について、例えば、「Project in Science I」の5つの講座における自己評価が高まった項目がそれぞれの講座でなぜ異なるのか、生徒の自己評価と教員の評価は整合的かなど、検証・改善が求められる。
- ・「行動する知性」等を評価する枠組みはあるのか、Chufu-compassやループリックとの関係はどうなっているのか、検証して示すことが求められる。
- ・「教養総合I」、特に、例えば、「数学・英語で学びを考える」や「トレーニング科学」は、総合的な探究の時間の代替として適切なものか、検証する必要がある。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・コンピテンシーの評価に慣れない教員、疑問をもつ教員がいることについて、コンピテンシーの評価の在り方や、共通理解が課題であり、改善が求められる。
- ・「Project in Science II」の課題研究について、中央大学理工学部への内部での接続に特化した動きがあるように見えるので、課題研究としての研究開発を組織的に動かしているか、検証することが求められる。
- ・「トレーニング科学」では体育科と家庭科の担当が協力し、「Project in English III」では英語科と理科が協働で指導している点は、評価できる。
- ・教員向けワークショップや勉強会、他校視察等で教員の指導力向上を図っている。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・卒業研究では、附属校の利点を生かし、大学教員や院生等からの指導助言を受けるなどしており、生徒に自ら研究を進めようとする姿勢も見られ、評価できる。
- ・地域連携や他の SSH 指定校との交流では、他の SSH 指定校への訪問程度におおむね留まっており、より積極的な取組が期待される。
- ・他の SSH 指定校と連携したコンピテンシー自己評価アンケート調査を実施し、結果を比較分析していることは、評価できる。継続的な調査が望まれる。
- ・例えば、大学の研究室への訪問を充実させるなど、理工系への進学者の増加に向けた取組の改善・充実が求められる。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・「コンピテンシー自己評価アンケート分析」等を大学のホームページに掲載し、成果物の「Chufu-compass」を各研究大会で発表、ワークショップも開催しており、評価できる。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・「中央大学と附属学校との連携推進協議会」の設置等、積極的な対応を行っている。今後、理系生徒の増加への取組と SSH 事業に関する議論の深まりが期待される。
- ・他の附属校との成果の共有は、一般の他校への適用可能性を検討するために利用できるものとして期待される。
- ・中央大学理工学部教員の派遣など高大連携の強化、事務支援体制の強化、教員研修支援等を行っている。

【I期3年目】の中間評価結果について

1 中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成がおおむね可能と判断されるものの、併せて取組改善の努力も求められる。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制，成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容が十分達成されている】

- ・新型コロナウイルスの感染拡大の状況下で，Web 連絡ツールにより工夫して探究活動を進めている。
- ・校内での推進・管理は「SSH 推進会議」（毎週1回程度）で行い，そこで議論された内容を「校内運営会議」で議論・検討し，最終的な計画を立てる体制としている
- ・I期目として指定前後の生徒の変容をよく検証しており，評価できる。教員の意識の変容も検証している。課題をもって成果の分析に取り組もうとしている。
- ・2年次には，1年次の課題を改善した授業の実施等により，効果的に成果を上げ，3年次は，新型コロナウイルスの感染拡大による臨時休業中も探究活動に向けた課題を課し，SSH 事業を進めている。
- ・クラウドサービスの活用により SSH 事業の実施内容の教員全体での共有・成果分析を行っている。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容が十分達成されている】

- ・今年度，第3学年にいくつか学校設定科目を新規に設定している。ただし，新規に設定した科目の内容については，大まかな内容しか説明されておらず，探究活動との関連が見えない点は改善が求められる。
- ・教科授業内で探究的な活動を行うのが学期に1回というのは，活動内容にもよるが，少ないのではないかと吟味することが望まれる。
- ・特色ある教材として「探究活動の手引書」等を作成している。
- ・「主体性」，「積極性」等は重要な内容だが，SSH にふさわしい具体性が望まれる。
- ・探究活動の評価をルーブリックで実施し，教員研修で目線合わせ等を行っている。
- ・課題研究と理数以外の教科・科目との連携も図ることが望まれる。
- ・課題研究について，第2学年の単位数が少ないのではないかと，第3学年にも設定すべきではないかといった点について検討・改善が望まれる。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・例えば、上級生や卒業生、関係者をメンター等として更に活用することで、指導体制の充実が見込まれるのではないか。
- ・第1・2学年の探究活動を学年教員が担当し、理科教員は直接担当せずに、実験室で指導する方式で、多くの研究テーマの指導に当たっている。また、大学教授によるミニ講義等、生徒を牽引する企画が盛り込まれている。
- ・外部講師による探究活動の評価研修の実施等、教員の指導力向上を図っている。
- ・報告書で、どうグループ探究全体を統括して評価・改善を行っているか、グループ探究にSSH推進会議はどう関わっているかといったことも、示すことが望まれる。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・教育課程外に希望者対象の「モノづくりプロジェクト」、 「エンパワーメントプログラム」などが設定されている点が評価できる。
- ・理数系部活動に所属する生徒数が多く、活動が活発であることは、評価できる。
- ・先進のSSH校と連携しており、MATHキャンプやSSH数学オリンピックワークショップに生徒が参加している。
- ・科学技術人材の育成の点から地域の小学校や中学校、高等学校との関わりを増やしてはどうか、検討がすることが期待される。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・校内での教員間の成果の共有は、クラウドサービスを利用し、教職員全体が研究成果の内容を知ることができるようにしており、評価できる。
- ・文化祭での紹介、他校の視察受入れ等、成果の普及・発信に取り組んでいる。
- ・ホームページの更新もよく行われているが、特色ある教材等が掲載されていないことについては、改善が求められる。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・事務員2名を採用して、教員の負担を少なくし、SSH事業を推進するために貢献をしている点が評価できる。
- ・今後、中高一貫教育校ならではのビジョンでSSHを推進する考えはあるか。
- ・教員研修を充実させて、探究活動を管理機関として推進しており、評価できる。
- ・理数系教育の充実に向けた今後の展開等をより詳細に示すことが望まれる。

神奈川県立希望ヶ丘高等学校（管理機関：神奈川県教育委員会）【I期3年目】の
中間評価結果について

1 中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成がおおむね可能と判断されるものの、併せて取組改善の努力も求められる。

2 中間評価における主な講評

①研究計画の進捗と管理体制，成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・ I期当初より普通科全生徒対象の課題研究の実施を目指し，関係する学校設定科目を設置するなど多様な取組を通して，課題設定力など育成すべき5つの能力に向けて探究的な活動を実施している点が評価できる。一方で，各能力について，アンケートの質問項目との関連も踏まえながら，定義付けを明確にし，教員及び生徒の共通理解を図ることが望まれる。
- ・ 自分の関わった取組への評価が甘くなることが懸念されるので，運営指導委員会は，中立的な立場から指摘や助言ができるよう留意することが望まれる。

②教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・ 通常の教科・科目での「5つの能力」の育成について，学校全体で整理・分析して，学校全体としての共通性や各教科の独自性等を明確にしながらの推進が望まれる。
- ・ 課題研究や探究的な学習の過程について，探究には多様なプロセスがあることや，それらのプロセスの繰り返しが必要であることも学習させ，課題研究等で実践させることが望まれる。
- ・ 全生徒対象の実験ノート等のルーブリックに基づくパフォーマンス評価の精力的な実施は評価できる。今後，評価の妥当性，信頼性を着実に進めることが期待される。
- ・ 教員研修等を通して，ルーブリックについての見識を深めながら，ルーブリックの内容を毎年見直していることは評価できる。
- ・ 課題研究の指導と評価の研究開発が，通常の教科・科目の授業改善につながることを期待される。

③指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・ 学校設定科目「SS希望」について，教科横断的に担当者を配置して，課題設定から

論文作成まで、教員が全校体制で指導しており、評価できる。

- ・理数関係教科のみならず、全教科を通して、論理的思考力等の能力育成を推進しており、評価できる。
- ・ICT活用研修、ルーブリック研修などの実施や、研究ノートを記録した内容をクラウドにアップロードし、共有するなどの取組は評価できる。今後も、こうした取組を試行錯誤しながら、課題研究の指導や評価、校内指導体制等の改善を図ることが期待される。
- ・課題研究において、指導経験のある教員が指導経験のない教員とチームを組んで実施するなど、工夫がなされており、評価できる。

④外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・大学や自治体、企業グループとの連携による研究支援や教育環境の整備を有効に活用しており、また、連携する外部機関も年を追って増加しており、評価できる。
- ・全国ICT教育首長協議会による「ステップモデル校プロジェクト」の指定や地元企業との具体的な連携事業も行われている。
- ・外部連携について、今後の予定も多くあり、着実な取組が期待される。
- ・神奈川県教科研究会理科部会の実験実習などは、評価できる。また、県教委も関わって、学校間の連携が行われている。

⑤成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・課題研究の指導と評価の成果や授業改善の具体的な成果等について、今後ホームページ等を通じて発信・普及を図ることが望まれる。

⑥管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・民間企業との連携によりICTのインフラ整備が進んでいることは評価できる。今後の支援も期待される。
- ・事務職員や教員の加配を通しての人的支援は、評価できる。
- ・SSH指定校や理数教育推進校による情報交換会の開催は評価できる。
- ・生徒研究発表会「かながわ探究フォーラム」を大学と共催で計画しており、その成果と普及が期待される。

新潟県立柏崎高等学校（管理機関：新潟県教育委員会）【Ⅲ期３年目】の
中間評価結果について

1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制，成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・成果・課題の分析は丁寧に行われている。今後，どのような授業に関する取組や教材が影響しているか、詳細に分析することも期待される。
- ・管理体制を全教員が関わるものにしたことは，評価できる。ただ，部の分け方が交流，研修等の運営を中心としているため，授業への関わりがどの程度か，吟味することが期待される。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・全校生徒を対象に探究活動や課題研究を３年間通して行うカリキュラムを編成していることは，評価できる。ただし，理系の生徒も文系の生徒も全く同じ取組で良いのか，共通する部分と差異をつける部分がないかなどの検討が期待される。
- ・生徒の課題発見能力については，やや伸び悩み状態にあり，改善が必要である。
- ・英語の諸能力の向上についても，探究活動へうまく連携することが期待される。
- ・育成すべき生徒像が不明確であり，課題研究の指導方法についての議論が十分深まっているのか，生徒の成果物を基準としたルーブリックの作成は生徒の変容を評価するものとして適切か，検証することが望まれる。
- ・探究活動を行う上で，より教科との関連性をしっかり計画することが期待される。
- ・授業改善について，今後の具体的な取組が期待される。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・全教員が関わる体制になっており，担任と副担任を理系と文系でセットにしているなどの配慮が見られ，評価できる。
- ・指導力向上に向けて，先進校の視察のみならず，日常的・継続的・組織的な取組を充実させることが期待される。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・「柏崎サイエンススクール」を開催し、柏崎市内の小学校と連携している点は評価できる。一方で、中学校との連携を進めることも期待される。また、地域との連携について、地元企業等にも探究の課題テーマの設定の際に関わってもらいなどして、連携を広げていくなど、更なる工夫改善が期待される。
- ・部活動について、生物部は積極的に活動し、成果をあげているが、科学系のオリンピックへのチャレンジや英語を生かしたチャレンジなどについても、生徒を支援することが期待される。
- ・市立図書館と連携してより多くの資料が閲覧、利用できる環境ができていることは、評価できる。より積極的な活用ができる取組を計画することが期待される。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・特色ある教材の開発をホームページに掲載できる段階まで進めることが望まれる。
- ・探究活動や課題研究において生徒に行った声かけを記録して残すといった工夫した取組がなされていることは、評価できる。今後、カテゴリー分けなどを行い、指導する教員が参照しやすい状況にして共有するなど、更なる工夫が期待される

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・加配教員を置くという配慮が見られる点は、評価できる。
- ・新潟県スーパーハイスクール（NSH）連携委員会の取組については、評価できる。一方で、全ての学校が同じ立ち位置として参加するだけでなく、学校ごとに特定の意義や役割などを踏まえて、相互交流できるようにすることも期待される。
- ・成果の発信については、より様々なメディアに取り上げられるようにすることが期待される。

新潟県立新発田高等学校（管理機関：新潟県教育委員会）【Ⅱ期3年目】の
中間評価結果について

1 中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成が可能と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・ I 期目の成果と課題を踏まえた研究計画を着実に前進させている。
- ・ 管理体制をほぼ全教科の教員が関わるように設定しており、評価できる。
- ・ 取組の成果の評価を多様な評価手段を活用して丁寧に実施しており、評価できる。今後、更に検討を進めることが期待される。
- ・ 生徒の評価について、意欲面等以外に具体的な資質・能力の変容があまり触れられておらず、今後、これらの向上を評価することが期待される。教員自身の変容についても検証・分析することが期待される。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・ 理数科と普通科でそれぞれ趣旨の異なる探究科目を設置し、それぞれの良さを生み出すような探究学習を意図している点が評価できる。
- ・ 「Science Literacy」について、内容がコミュニケーション力やプレゼンテーション力の向上になっており、PISA の定義に対し狭隘すぎないか、検証が望まれる。
- ・ 継続研究の実施について、研究が深まるというメリットと、研究課題を自ら発見・設定する力が伸びにくいというデメリットの調整を図る取組が望まれる。
- ・ 数学を重視するなど理科のみにならない方策の具体的な実施は、評価できる。特に、数学や家庭における独自のミニ課題研究の開発や普通科での「Data Science & Study」での統計分野の学びなど課題研究の充実に寄与している。
- ・ 大学との評価研究会での検討の中で、到達チェックリストとルーブリックの併用を具体的に試みているなど評価に関する計画的かつ具体的な取組は評価できる。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・ 理数科、普通科とも課題研究や探究的な学習における教科間連携が具体的に進めら

れている点が評価できる。ただし、理数系の教科の教員による連携ばかりでなく、文系教員による総合的な探究の時間以外での連携を含め、今後、より多くの教科の教員が関われるよう一層努力することが期待される。

- ・理科や数学の教員の関わる授業が多くみられるが、教員間の授業時数のバランスが適正であるか、常に確認することが期待される。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・いろいろな大学と積極的に連携して講座を開設して取り組んでいることは評価できる。特に、高大連携・接続との関連からも、複数の地元の大学との連携を一層進めることや、単発ではなく、継続的な連携へとつなげることが期待される。
- ・自然科学部が多方面に、また、自然科学部を核とした各種科学オリンピックへのチャレンジにも生徒が積極的に参加し活躍しており、評価できる。授業の課題研究でも、研究の中核となることが期待される。評価できる。
- ・小学生や中学生への取組として「芝高サイエンスラボ」を実施したり、学校行事とうまく組み合わせて活動報告を実施したりしている。中学生対象の「芝高サイエンスラボ」の新入学生徒募集への効果の検証も期待される。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・SSH 事業に多くの教員が関わることで、成果の共有・継承ができていることは評価できる。
- ・ネットワーク上でデータを管理し、共通のフォルダを設け、これまでの取組等の SSH 情報に全ての教員がアクセスできる体制になっており、評価できる。データの整理等が行われ、教員間でデータを活用しやすくすることが期待される。
- ・「課題研究教材」、「課題研究ループブック」など開発した教材について、今後、ホームページへの掲載等を行い、全国に向けて成果を発信することが期待される。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・加配教員を置くという配慮が見られる点は、評価できる。
- ・新潟県スーパーハイスクール（NSH）連携委員会の取組については、評価できる。一方で、全ての学校が同じ立ち位置として参加するだけでなく、学校ごとに特定の意義や役割などを踏まえて、相互交流できるようにすることも期待される。
- ・成果の発信については、より様々なメディアに取り上げられるようにすることが期待される。

新潟県立高田高等学校（管理機関：新潟県教育委員会）【Ⅱ期3年目】の
中間評価結果について

1 中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成がおおむね可能と判断されるものの、併せて取組改善の努力も求められる。

2 中間評価における主な講評

①研究計画の進捗と管理体制，成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・管理体制について，全教員が関わる形態への見直しが行われ，全校での取組となっており，評価できる。
- ・運営指導委員からは具体的な指摘があり，よく機能していることが評価できる。

②教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・理数科「MC 課題研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」，理数科・普通科「MC 探究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」において，課題研究及び探究型学習を教育課程に位置付けて指導していることは評価できる。テーマとしても地元密着型の内容を意識していることは評価できる。ただ，普通科の生徒の科学技術への興味・関心の向上にはやや結びついていないように思われるので改善が望まれる。
- ・MC 探究の指導が理数科の課題研究の指導とどうつながっているか，明らかにすることが望まれる。理数科，普通科理系については，自然科学系の内容の充実も期待される。
- ・理数科の「MC 課題研究」は，うまく機能していると見受けられる。学年間を超えた上級生と下級生のディスカッション等，課題研究の指導に工夫が認められる。
- ・「上越サイエンスデイ」の取組は，郷土の科学にテーマを求めたクロスカリキュラムとして評価できる。
- ・校舎内に探究学習用の資料室を設置しており，今後の活用状況に期待される。
- ・生徒の研究の異学年を含めた共有・交流に研究発表会を効果的に活用していることは評価できる。

③指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・指導体制については，全校体制・全教員体制をとっていることが評価される。テーマ

設定等での協力は見られるが、具体的な生徒の能力・技能向上にそれぞれの教員がどう貢献しているか、具体的な関わりを一層明らかにすることが期待される。

- ・ALT や、理科、英語の教員による英語での科学の授業の取組は評価できる。このような授業での生徒の能力の伸長が期待される。
- ・探究学習型講演会や先進校視察で学んだルーブリックの改善などを具体的に示すことが期待される。
- ・授業改善について、実施計画書では学習の到達目標をルーブリックなどで段階的に示し学ぶ意欲を高めるとあるが、今回のヒアリング資料等では具体的事例が示されなかったところであり、今後、明らかにしていくことが望まれる。

④外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・地域との連携が密接であり、評価できる。地元の小・中学校等を巻き込んだ連携の強化も期待される。
- ・北信越 SSH 課題研究指導力向上研修会を実施しており、評価できる。
- ・今年度はオンラインでの実施ではあるが、国際性を高めるために、ベトナムの高校生との共通の科学テーマに基づいた交流がなされており、評価できる。
- ・MC 理数 English では、科学的な資質・能力の向上に向けた努力も期待される。

⑤成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・成果の発信が種々の方法・機会で行われていて、評価される。「上越サイエンススタディテキスト」等の教材について、ホームページでの公表が期待される。

⑥管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・加配教員を置くという配慮が見られる点は、評価できる。
- ・新潟県スーパーハイスクール（NSH）連携委員会の取組については、評価できる。一方で、全ての学校が同じ立ち位置として参加するだけでなく、学校ごとに特定の意義や役割などを踏まえて、相互交流できるようにすることも期待される。
- ・成果の発信については、より様々なメディアに取り上げられるようにすることが期待される。

新潟県立長岡高等学校（管理機関：新潟県教育委員会）【Ⅲ期 3年目】の
中間評価結果について

1 中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成がおおむね可能と判断されるものの、併せて取組改善の努力も求められる。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制，成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容が十分達成されている】

- ・Ⅱ期目の成果と課題を踏まえⅢ期目の研究計画を着実に具体的に進めている。特に、理数科では文献調査とテーマ設定のために十分な時間を確保する観点から単位数、指導体制ともに大幅な見直しを実施しており、評価できる。
- ・SSH 企画会議を週時程に位置付け，毎月の職員会議で周知している。
- ・科学技術に対する興味・関心・意欲等について，「増加した」と答えた生徒が一定程度に留まっている点については，原因の究明と改善の取組が期待される。
- ・卒業生への追跡調査を実施し，教育成果を検証しようとしている点が評価できる。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容が十分達成されている】

- ・普通科においても，全員が課題研究を行っている。「SSR I」で全ての生徒に物理・化学・生物・地学・数学の5分野から研究テーマを選択させ，研究活動を行うなど課題研究の基礎を充実させている点等が評価できる。身につけた研究プロセスを第2学年での文系の課題研究にどう反映させるかといった研究成果が期待される。
- ・理数科の「SSRA (B, C)」を特色ある多様な取組で構成している点は評価できる。ただし，育成したい資質・能力について，学年内での横の関連性や，学年間の縦の系統性等を明確化・可視化し，全体像が俯瞰できるような工夫等が望まれる。
- ・学習活動の評価について，自己評価・教員評価を効果的に進めている。また，ICEモデルを活用した評価も，更に研究・実践を進めることが期待される。こうした評価方法が生徒の指導方法にどう還元されるかなど今後の研究開発が期待される。
- ・理数以外でも探究的な学習過程を取り入れつつあり，一層の改善が期待される。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容が十分達成されている】

- ・課題研究の指導に対しては，全教科の教員が当たる体制ができています。

- ・SSHの取組は全ての教員を対象に公開授業としている点は評価される。
- ・課題発見力向上の組織的取組の強化も期待される。
- ・先進校視察、新潟県スーパーハイスクール（NSH）連携委員会などに参加し、各校の研究成果を得ている。今後、それを指導力向上につなげていくことが期待される。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・大学や研究機関と連携した取組が、理数科、普通科ともに実施できている点が評価できる。高大接続の改善にどの程度貢献しているか、今後の検証が期待される。
- ・長岡地域理科教育センターとの連携で義務教育段階の理科教育の充実に取り組んでおり、評価できる。取組に参加した高校生の変容について、課題研究で育成を目指す資質・能力の観点からも評価することが期待される。
- ・新潟県及び長岡市の中核拠点校としての実績を上げている。「新潟県SSH生徒研究発表会 in Echigo-NAGAOKA」を開催し、企画運営に当たり、「英語によるパネルディスカッション」や、参加生徒が協力して実技課題に取り組む「生徒交流会」等を実施しており、評価できる。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・特色ある教材として、「ディベートについて」、「課題研究メソッド」をホームページに掲載していることは評価できる。今後、理数科「SSRA・B・C」、普通科「SSR I・II」での具体的な取組や「新潟県SSH生徒研究発表会 in Echigo-NAGAOKA」の成果を分析し、汎用性のある指導事例として全国に発信することが期待される。
- ・発表会や講演会、出前授業等の報道機会の充実に取り組んでおり、評価できる。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・SSH指定校への常勤講師各1名の加配による指導体制の充実は、評価できる。
- ・SSH・SGH・SPHが連携して実施している新潟県スーパーハイスクール連携委員会について、タイプの異なる指定校が参加していることによる相乗効果を整理・分析して、他県にも発信することも期待される。また、今後、SSH指定校5校それぞれの特色ある取組を管理機関として県内に普及させることが期待される。
- ・成果の発信については、より様々なメディアに取り上げられるようにすることが期待される。

新潟県立新潟南高等学校（管理機関：新潟県教育委員会）【Ⅳ期 3年目】の
中間評価結果について

1 中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成が可能と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制，成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容が十分達成されている】

- ・「SSH 総務部」を中心にした上で，全校体制を基本にしており，評価できる。校内研修での全教科からの参加等，学校全体で取り組んでいる様子が見受けられる。
- ・一定程度，成果を詳しく分析しており，評価できる。今までの成果を踏まえ，課題研究に関する指導計画を再編し，学年を中心に推進体制を組んで取り組んでいる。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容が十分達成されている】

- ・課題研究について，理数コース，普通コースそれぞれの特性を踏まえた段階的，総合的な計画がなされている。普通コースでも2年間にわたって研究を深める環境を整えている。特に理系生徒について一層の充実が期待される。
- ・生徒に身に付けさせたい力を前提とした「標準ルーブリック」の開発により課題研究の指導方法と評価方法の一体とした開発に取り組んでいる。
- ・評価方法と高大接続や指導方略の策定の関連性を研究し，ルーブリックを作成するワークショップを開催し，「江風ルーブリック」を開発し，生徒の到達度を把握，指導方法を改善するなど，教育内容を常に自己評価・相互評価する姿勢は評価できる。生徒との面談を通じた改善も行われている。今後，こうした取組が授業改善にどうつながるかを検証し，具体的な成果として示すことが期待される。
- ・課題研究のみではなく，通常の授業でも探究的な学習の導入を進める授業改善に取り組んでいる。今後，通常教科の授業改善が一層進むことが期待される。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容が十分達成されている】

- ・全校的な指導体制を組織していることは，評価できる。理系と文系それぞれの特性を活かすような発展的な指導体制も考えられるのではないかと，検討が期待される。
- ・全教員対象の校内研修を複数回実施し，視察も取り入れている。さらに，「イノベー

ション人材育成シンポジウム」を開催予定であるなど、探究活動の指導のモデル的役割の一端を担っている。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・新潟市地域・魅力創生部を中心とする連携での活動「江風探究ユニット」は、生徒の発表に対し、行政の視点から新しい指導助言を得るなどの成果を上げている。ただ、より多方面との連携や協力も期待される。
- ・新型コロナウイルス感染拡大の影響で海外研修が中止になってはいるが、代替措置として大学との連携やオンラインでの措置等の対応を行っており、評価できる。「江風グローバル研修」での共同研究等も成果が期待される。
- ・海外研修の準備を英語科の授業で行うことなども含め、全校での大規模な取組となっており、評価できる。英語での発信力強化について、具体的なデータとして、どのような成果がみられ、どのような課題が残ったのかを明確にすることが期待される。また、Ⅱ・Ⅲ期目の「環日本海環境プロジェクト」「北東アジア環境・エネルギーシンポジウム」の成果がどう分析され引き継がれているかなどを具体的に示されることも期待される。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・「江風探究ユニット」や「江風SSG」,「江風標準ルーブリック」に関する諸資料や教員研修資料等、他校の参考となる資料をホームページに積極的に掲載しており、他校への情報提供も充実している。今後、課題研究の指導と評価の一体化やアジア圏との交流事業の成果をまとめた資料も示すことが期待される。
- ・校内における情報共有をはじめ、校内研修などよく実施できている。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・加配教員を置くという配慮が見られる点は、評価できる。
- ・新潟県スーパーハイスクール（NSH）連携委員会の取組については、評価できる。一方で、全ての学校が同じ立ち位置として参加するだけでなく、学校ごとに特定の意義や役割などを踏まえて、相互交流できるようにすることも期待される。
- ・成果の発信については、より様々なメディアに取り上げられるようにすることが期待される。

福井県立高志高等学校（管理機関：福井県教育委員会）【Ⅳ期 3年目】の
中間評価結果について

1 中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成がおおむね可能と判断されるものの、併せて取組改善の努力も求められる。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制，成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容が十分達成されている】

- ・高志中学校の開設，理数科の閉科によって，理数科で開発した課題研究のシステムや成果が普通科にどう継承されているのか，分析と整理が期待される。
- ・成果と課題が明確に整理・分析され，課題解決の見通しもおおむね検討が進んでいる。特に，多様な評価方法を開発・実施・分析して成果を見いだすとともに，評価方法間の相関を見るなどして課題を見だし，その解決を図ろうと計画的に取り組んでいる様子が見える。
- ・全教員を各事業推進WGに配置し，全校体制を構築できている点が評価できる。
- ・自校で開発した意識調査と民間の能力測定テストの結果の相関関係を分析しており，評価できる。生徒の自己評価力を高める取組の検討が期待される。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・中高一貫の特性を活かした理数科目の充実，評価できる。
- ・探究科目におけるコアテーマ型課題研究は，評価できる。その成果やコアテーマとグループテーマでの活動の効果の検証が期待される。
- ・全校生徒が第3学年まで課題研究に取り組む教育課程を編成し，課題研究の充実や英語表現力の伸張をねらいとした学校設定科目を実施している点が評価できる。
- ・理科・数学以外の教科でも，教材や指導方法の工夫改善，教科間の連携を堅実に進めており，評価できる。これらを総合的に編成していくことも期待される。
- ・「探究の手引き」のチェックリストについて，生徒が見通しを持って課題研究を進めていく上で一定の成果が見られ，評価できる。更に工夫改善を進め，他校でも有効に活用できるものにすることも期待したい。
- ・課題研究の全国指定校のテーマ一覧表の作成は，大変な作業だと思われるが，その活用と成果，他の高校への普及などにも一層期待される。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・全校体制でSSHに取り組んでおり、評価できる。ただし、課題研究の授業を担当していない教師も探究的な指導等に取り組んでいるかの吟味が期待される。
- ・コラボプロジェクト委員として県内の大学・企業やJAXAから指導者を招へいし、3年間持ち上がりで継続的に指導に当たってもらう取組は、安定した育成の点で評価できる。ただし、研究の幅や指導が固定化しないか、高校生の自由な発想に影響を与えないかといった点を検証することも期待される。
- ・探究型学習等に関する教員研修を一定回数実施しており、教員の指導力向上を図っていることは評価できる。経験者とのTTの成果等の分析も期待される。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・地元の数多くの企業と連携した課題研究が活発に展開されており、それらが単なる研究ではなく、地元への貢献として展開されていることは評価できる。
- ・他のSSH指定校や県内外の小・中・高校と連携した取組が継続的に実施され、その内容も発展的に展開されていることが評価できる。
- ・英語科目の改善や、海外研修の充実、中学校段階での取組等、全校を上げて語学力の育成を図っている。共同研究や国際交流の面での更なる発展が期待される。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・特定の教員に集中させず、多くの教員が研究部を担当するという方法は、評価できる。また、ベテラン教員と新任教員との協同など、校内の連携体制が構築できてきており、取組の継続性が担保できている点も評価できる。
- ・他県からの教員派遣も受け入れている点も評価できる。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・福井県の理数科転換の方針による県としてのSSH事業への影響と、理数科での成果の継承と発展について、県としての分析と普及の評価が期待される。
- ・管理機関として、教員の加配や、理科に精通したALTの優先的な配置、ICT環境の整備など、人的・物的支援を優先的に行っている点が評価できる。
- ・福井県内合同課題研究発表会の開催等、県として理数教育を推進している点が評価できる。また、SSH連絡協議会を設置し、SSH校のサポートを行っている。
- ・SSHの活動について、福井県広報番組や新聞・ラジオ等を通じて広く県民への広報をしている。成果の発信についても、今後、更なる充実が期待される。

福井県立武生高等学校（管理機関：福井県教育委員会）【Ⅲ期 3年目】の
中間評価結果について

1 中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成がおおむね可能と判断されるものの、併せて取組改善の努力も求められる。

2 中間評価における主な講評

①研究計画の進捗と管理体制，成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・生徒の成果に関する評価は，綿密に行われている。生徒の資質・能力（課題を多面的に捉える力，自己発信力等）がどう育成・伸長されたのかなど，今後，質的な変容を把握できるよう更に展開していくことを期待したい。一方，アンケートや評価項目を工夫し，整理していく必要も感じる。
- ・SSH 研究推進部が中心となって，その下に3つのWGを組織している。全教員がいずれかのWGに所属し，全校体制を構築できている点は，評価できる。

②教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・全校生徒を対象にした課題研究の積極的な実施や「課題研究基礎」で使用するテキストの開発は，評価できる。指導プロセスや質的向上について，どう分析し，見いだした課題にどう対応していくのかを明確にすることも期待される。
- ・ルーブリックに探究活動での気づきを記述させるなどの工夫や，デジタルポートフォリオの運用における生徒の変容の質的記述とモデル化等，更なる工夫や今後の改善が期待される。
- ・探究進学科では STEAM 教育が重視され，芸術と家庭科をベースに教科横断型の学習内容が工夫されている。ただし，理数の内容の減少等が懸念される。授業の内容や方法とともに，生徒が身に付ける資質・能力を明確にした上で，教科横断型の意義等を吟味しながら，実施・評価していくことが望まれる。
- ・学校設定科目での取組の成果を他の教科・科目へ普及し，授業改善を進めようとしている点は評価できる。教育課程全体としての成果を期待する。

③指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・授業を公開して指導力の向上を図ろうとする教師の増加は，評価できる。教員の指

導力向上のために、授業改善として「考える時間の確保」，「話し合い」，「説明」，「授業公開」などがどう有効なのか明らかにすることが期待される。

- ・授業改善のWG等で教科間の連携が図られるとともに、WGのメンバーを毎年変え、成果の継承が行われている点も評価できる。
- ・毎月1回、放課後に自主的な校内研修が行われている。校内研修の企画・運営を若手教員が中心となって積極的に実施していることも評価できる。

④外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・普通科の「課題研究Ⅰ」での地元企業や地場産業、行政機関との連携、理数科「科学研究Ⅰ」での大学や企業の研究者との連携は、評価できる。量的な側面に加えて、連携が生徒の変容にどう関わるのかなど、質的な側面からの工夫改善も期待される。生徒の主体性が担保されているのかどうか、検証も期待される。
- ・理数系部活動も精力的に活動が行われている。個人の活動は年々増加傾向にあり、その成果が見られている。この個人活動がうまく部活動としての活動へ継続的に引き継がれていき、継続的な研究や活動につなげられることが期待される。人数的に拡大の工夫が求められる。

⑤成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・SSHライブラリー室の設置について、学内だけでなく、域外の学校からの活用などの可能性も検討することが期待される。
- ・研究成果の発信については、報告書に加えて、各事業が終了する毎に「SSH NEWS」を発行し、ホームページに掲載している。また、学校設定科目で使用している本校独自のテキストも掲載し、他校でも使用可能としている。今後、学校としての特徴や独自の活動の成果について、より発信することが期待される。

⑥管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・福井県の理数科転換の方針による県としてのSSH事業への影響と、理数科での成果の継承と発展について、県としての分析と普及の評価が期待される。
- ・管理機関として、教員の加配や、理科に精通したALTの優先的な配置、ICT環境の整備など、人的・物的支援を優先的に行っている点が評価できる。
- ・福井県内合同課題研究発表会の開催等、県として理数教育を推進している点が評価できる。また、SSH連絡協議会を設置し、SSH校のサポートを行っている。
- ・SSHの活動について、福井県広報番組や新聞・ラジオ等を通じて広く県民への広報をしている。成果の発信についても、今後、更なる充実が期待される。

静岡市立高等学校（管理機関：静岡市教育委員会）【Ⅱ期3年目】の
中間評価結果について

1 中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成がおおむね可能と判断されるものの、併せて取組改善の努力も求められる。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・新型コロナウイルス禍の中でも、プログラムを工夫し、海外研修に代わるものを実施している。
- ・全ての教員がSSHプログラムを担当する体制を整えており、評価できる。生徒が課題研究に取り組むことに対して肯定する教員の割合が増加しており、着実に成果が上がっていると評価できる。理系人材の輩出が教員の意識の変容に繋がっている。Ⅱ期では校内にISEP（市高科学教育プログラム）企画委員会を設置し事業の総括を行うこととしており、効率的な運営ができるようになっている。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・科学探究科、普通科それぞれでの課題研究の充実・拡大の方向は、評価する。
- ・生徒の評価では、「理解・能力」を測る「科学的リテラシー測定テスト」と「課題への参与」を測る「探究能力測定グループワーク（ブラックボックス）」（行動観察記録）を独自に開発しているところであり、成果が期待される。
- ・教員の共通理解をよく図って、探究的な手法や主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた授業を実践するようになってきている。
- ・科学探究科の課題研究において、第1学年のミニ課題研究で自由に課題設定する場面を意図的に設定したり、大学等と連携した「夏季研究室研修」とのつながりを明確にしたりするなど、各取組が有機的につながるように工夫している。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・教員の指導体制について、「やり方」の前に「あり方」を整えて、効果的な全校体制を構築しており、評価できる。
- ・科学探究科でSECチーム、普通科でSS探究チームをそれぞれ設置し課題研究を推

進し、「授業改善委員会」で全体の授業改善を図っている。

- ・様々な教科がそれぞれの専門性を生かして生徒の指導に当たっており、「夏季研究室研修」は生徒ばかりでなく教員の研修にもなっているなど工夫が見られる。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・「SEC-I・II・III」において、多くの近隣大学の留学生在がTAとして活用する仕組みを構築している。発表会では、教員や大学教授、TAとの質疑応答に英語で応じるだけでなく、生徒同士でも英語で質疑応答を繰り返しており、来場者が一様に驚きの表情を見せるとのことであり、評価できる。
- ・理系部活動生徒が地元の科学館や中学校での出前授業を実施しており、各種コンクールでの受賞も多く、評価できる。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・科学探究科の生徒が作成したレポート等を、どの教員も自由に閲覧できるようアーカイブ化していることは、評価できる。具体的にどう活用され、工夫が見られるのか明らかにすることが期待される。
- ・第1・2学年全員が参加するSSH研究成果発表会を開催している。その際、各プログラムの主担当教員も口頭発表を行い、研究開発の視点で1年間の足跡を報告している。教師は伴走者だという学校のスタンスを実践する場ともなっている。
- ・「ミニ課題研究」の教材等をホームページで公開することが期待される。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・中高交流で、加配として優秀な中学校の理科教員をSSH指定校に配置している。
- ・大学で生物を専攻した外国語指導講師を配置している。
- ・研究発表会等に関して、市立各小中学校に情報提供しているほか、市内の各区役所にSSH通信を配架している点が評価される。地域からの入学希望者が増加しており、市を挙げての支援が効果をあげている。
- ・管内の研修機会の充実や、課題研究の取組の成果の他校への普及についてのきめ細かい支援等も期待される。

愛知県立一宮高等学校（管理機関：愛知県教育委員会）【Ⅳ期 3年目】の
中間評価結果について

1 中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成が可能と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制，成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容が十分達成されている】

- ・SSH企画部が中心になって進めているが，理数系のみでなく，各教科が最低1つのSSH事業を担当するなどし，全校体制を構築しており，教員の理解や関わりについても評価できる。それらは各種の評価の裏付けに基づいている。
- ・事業効果の検証を様々な取組で行っており，また，様々な指標から生徒及び教師の変容を分析しており，評価できる。卒業生を対象にした追跡調査は，SSH事業の真の効果を経年比較できるものであり，今後も継続することが期待される。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容が十分達成されている】

- ・3年間を通じて各学年で課題研究に取り組む学校設定科目が置かれている。
- ・課題研究に加え，理科，国語，家庭，数学，英語等で探究の基礎を盛り込んだ科目を新設して，学校のカリキュラム全体が探究的なものになるようマネジメントしている。科学全般の分析に不可欠な数学に力を入れていることも評価に値する。
- ・講義も対話や討議を重視し深く学べるように工夫されている。理系の課題研究や探究活動の普通科文系等への拡大を一層図ることによる普通教科の学習指導等への影響を引き続き分析し，他の学校への普及という汎用性も検討することが期待される。
- ・課題研究を自己評価するためのICEによるルーブリックを生徒自身に作成させるとともに，教員によるルーブリックとも照合しながら生徒の変容を把握し，自己評価力を高める工夫を重ねている点が評価できる。
- ・課題研究交流会を開催し，高校生が自然科学研究のポスター発表で交流し，名古屋大学理学部の研究者やTAから指導を受ける機会を設けている。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容が十分達成されている】

- ・第1・2学年は個人研究，第3学年はグループ研究としている。個人とグループに

よる課題研究を繰り返すことによって、課題設定や課題の高度性などにどう影響を与えるのかの成果とその分析が期待される。

- ・複数名による指導体制，MI を用いた班分けなど，指導に関する積極的な取組が評価できる。以後のグルーピング等の見直しへのこの成果の活用が期待される。
- ・卒業生が課題研究を指導する機会を複数回設けており，キャリア教育の場としても有効に機能している。
- ・年2回実施する「課題研究教員研修会」が校内を超えて，県内の教員研修へと発展拡大している点が評価できる。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・英国パブリックスクールとの国際交流で相互に生徒が滞在し，授業の中で課題研究内容を口頭発表したり，ALT による英語による数学の授業，ALT と英語教員による科学技術を扱った英文への意見を英語で発表する授業を行ったりしている。
- ・海外事業の事後に参加者による報告会を行い，全生徒に情報提供している。直接経験できない生徒も多く関われる仕組みの構築による更なる発展も期待される。
- ・新型コロナウイルスの感染拡大の影響により外国との連携に制限があるものの，英語の教科において新しい取組を行っており，評価される。
- ・自然科学系部活動では，多くの生徒がさまざまな活動に参加しており，地域の課題に取り組む活動を継続的に行うなどしている。活発な部活動と課題研究などの探究活動の相乗効果に関する成果を一層明らかにすることも期待される。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容が十分達成されている】

- ・指導の手引きや指導カルテなど，指導に関する教材を作成し，教員の指導を順調に進めるための工夫がなされており，他校の参考となることも期待される。
- ・充実した内容のホームページ等で普及を図っている点が評価できる。
- ・課題研究交流会や教員研修会の取組には，多数の教育関係者の参加があることや，研修やセミナーの講師依頼，学会等での発表などを通して，研究成果の普及と発信に積極的に取り組んでいる。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容が十分達成されている】

- ・SSH 事業を推進する意欲と資質の高い教職員や，非常勤講師の配置は，評価できる。
- ・愛知県立の SSH 指定校が幹事を務める「あいち科学技術教育推進協議会」に管理機関として参加し，積極的に情報提供や研究協議の推進を図るよう指導している。

愛知県立岡崎高等学校（管理機関：愛知県教育委員会）【Ⅳ期 3年目】の
中間評価結果について

1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制，成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容が十分達成されている】

- ・SSH 事業の全体的な管理を SSH 部で行い，学校設定科目等の実施については SSH 企画プロジェクトで行っている。教員の意識改革に役立っており，学校の体制の改善に取り組んでいる点が評価できる。SSH 企画プロジェクトは，会議を原則として週に 1 回実施しているなど活発に活動している。
- ・評価基準表をもとに生徒，教員の変容を測定する体制も整いつつあり，評価対象である「岡崎キー・コンピテンシー」と評価手段である「サクセスクライテリア（ルーブリック）」が機能している点は評価できる。ただし，評価の分析に関しては，不十分な点がみられる。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・探究 AKC の他に，SSH 学校設定科目（iA），米国研修，研究室体験研修，部活動等が，総合的に機能している点が評価できる。
- ・理数系科目を中心に SSH 学校設定科目が多数開設され，高度な探究的学習活動が行われており，評価できる。ただし，通常の教科の指導への広がりについて，学校設定科目で指導改善の方向を確認しつつ取り組むことも期待される。
- ・英国との協働授業や，教材開発の取組は，評価できる。
- ・在籍する生徒に合わせた学校設定科目が設定されており，課題研究の充実に向けた努力も前進していることが評価できる。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・毎週行われる「SSH 企画プロジェクト」の会議で教科間連携等の調整を円滑に実施している点が評価できる。
- ・毎週の探究 AKC の授業を全教員が円滑に指導できるようになっている。探究 AKC

の1講座の指導を複数の教員が担当している点は評価できる。

- ・校内で「相互授業参観週間」を設け、他の教員の授業を参観しやすくしている。参観後に研究協議を行うなどの工夫をし、お互いに気づきを述べ合って指導改善のきっかけにするなど、教員全体の指導力向上に更に取り組むことが期待される。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・理数系部活動等の活動も活発であり、その受賞歴も数多く、評価できる。
- ・大学や研究機関との多様な連携により高度な指導を実現させている点は評価できる。ただし、高大接続の改善まで視野に入れ、継続的な取組を行うことが期待される。例えば、大学院での体験研修も、そこで見いだした課題を発展させ課題研究の深まりにつなげることが期待される。
- ・地域連携では、「岡崎市と愛知県立岡崎高等学校との連携協力に関する包括協定」を締結し、北山湿地の環境保全活動・生態調査を実施するとともに、岡崎市小中学校理科作品展でのサイエンスショーの実施等の活動をしており、評価できる。
- ・県内の高校生の探究活動の成果発表の場として「科学三昧 in あいち」を主催するとともに、「SSHの日」、「部活動学習会」においても県内に参加を呼び掛けるなど積極的な対応を行っており、評価できる。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・新たに赴任した教員にこれまでの取組の意味や経緯を理解してもらうことも意識されており、評価できる。
- ・成果の普及について、ホームページにおける、探究 AKC の教材等の早期の掲載や、活動報告の充実等、成果の発信の改善・充実が望まれる。また、掲載した教材について、他校での活用事例を集めることも期待される。
- ・IV期目の SSH 指定校として、愛知県教育委員会と連携して教員研修を中心となって行うなど、校外への成果の普及について更なる工夫・充実が期待される。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・「あいち科学技術教育推進協議会」幹事会及び協議会では、準備段階から指導的立場として関わっている。
- ・県教育委員会として、教員研修の更なる充実や、企業の立地等を生かした、更なる活動の工夫等を行うことも期待される。

愛知県立時習館高等学校（管理機関：愛知県教育委員会）【Ⅲ期 3年目】の
中間評価結果について

1 中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成がおおむね可能と判断されるものの、併せて取組改善の努力も求められる。

2 中間評価における主な講評

①研究計画の進捗と管理体制，成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・新型コロナウイルス感染拡大の対応について，海外研修，大学での実験実習では Web 会議システムを用いたオンラインでの研究発表や講義に，探究Ⅱでは個人研究に変更するなど柔軟に対応し，新たな成果や課題を得ている点が評価できる。
- ・成果と課題の分析・検証について，各種評価表，自己評価シート，意識調査，進路結果，卒業後の追跡調査等から適切に行っており，評価できる。
- ・毎週行われる「SG 専門委員会」が事業の計画や各事業の評価等を担当し，「SSH 評価委員」が全体評価を行っているが，SSH として体制を整理できているのか，SSH と AGH の計画と運営，評価のすみわけが適切に行われているか，検証が望まれる。

②教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・理系と文系の探究活動が一層相乗効果があるものになることが期待される。
- ・数学の各科目の内容を理科の学習進度を考慮しながら再編成しており，評価できる。
- ・探究について，繰り返し深められるように，「探究基礎」，「探究Ⅰ」，「探究Ⅱ」とそれぞれ生徒に身に付けさせる資質・能力のレベルや内容に応じて編成していることは評価できる。なお，「探究Ⅰ」の内容が十分であるか，検討が望まれる。
- ・通常の教科の探究の支援にどう取り組んでいるか，明らかにすることも望まれる。
- ・全授業や事業が探究活動に連結するように，「評価表」と「探究力自己評価シート」を用いて，各教科で課題発見力や論理的思考力，表現力を向上させる取組を実施し，生徒に自己変容を自己評価させている点が評価できる。
- ・探究科目におけるテキスト教材は，理数教員以外も活用できるものとして有効な教材であり，評価できる。
- ・英語力の育成を系統的に行うために，アウトプットの活動を重視し，テーマ学習や留学生と対話を多く持つようにしていることの成果もまとめてほしい。

③指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・大学の大学院生、留学生等との連携の元に、実験スキルや英語力の向上が図られており、評価できる。
- ・授業を担当する教師で指導方法等を共有できる仕組みが出来上がっており、理数以外の教師を含めた指導体制が確立されている。
- ・教員の指導向上のため、授業時間における経験豊富な教員による巡回が行われている。校内研修等を充実させることも期待される。

④外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・大学と包括的に連携し、探究科目だけでなく、大学の実験実習に生徒を参加させるなど具体的に展開できており、評価できる。今後は、成果を明らかにしていくことや、高大接続の検討の可能性が期待される。なお、大学の実験実習において、研究が生徒の主体的な発想によるテーマであることも期待される。
- ・大学等や地域との連携がしっかり実施されているが、やや行事中心になっていないか。より日常的な取組の中で行うことが期待される。また、SGHの人脈の活用について、SSHとして適切な位置づけかなど、見直すことが期待される
- ・英語力の系統的な指導だけでなく、国際交流プログラム等、国際性が一層重視されており、評価できる。国際共同研究の取組も今後期待される。

⑤成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・開発教材等の一部が公開されているが、他の高校への普及のため、より一層の公開が期待される。報告書以外に動画による成果発信を行っている点が評価できる。
- ・校務分掌SG部の構成員を毎年一定数入れ替えており、多くの教師がSSH事業に関わることができるようにしているのは、評価できる。

⑥管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・SSH事業を推進する意欲と資質の高い教職員を配置するとともに、非常勤講師を措置する支援を図っている。
- ・本校が愛知県東部・三河地方の拠点校として成果発表や研修の場となり、活躍できるよう指導・助言がなされており、評価できる。
- ・愛知県立のSSH指定校が幹事を務める「あいち科学技術教育推進協議会」に管理機関として参加し、積極的に情報提供や研究協議の推進を図るよう指導している。

愛知県立豊田西高等学校（管理機関：愛知県教育委員会）【Ⅱ期3年目】の
中間評価結果について

1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制，成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・計画との関係を整理して報告がまとめられているか検証することが望まれる。
- ・成果と課題の分析では，各調査で調べられる資質・能力と本事業が求めるものとの関係を明確することが期待される。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・課題研究の段階を「SS 課題研究」をⅠ～Ⅴに分け，全生徒に対しきめ細かく段階を踏んで実施しており，評価できる。第1学年における「SS 課題研究」のⅠ・Ⅱは様々な工夫がなされ改良も加えられていて評価できる。例えば，第1学年に生徒がテーマを設定するようなミニ課題研究のプログラムを組み込み，第2学年の課題研究によりつながりをもたせることを検討することも期待される。
- ・「SS 数学Ⅰ」や「SS 数学A」でのデータ処理などは文系の生徒にも役立つ内容となっており，評価できる。
- ・生徒の変容をルーブリックを活用し，具体的に評価しており，ルーブリックの開発・改善に積極的に取り組んでいる。他の教科にも用いられる評価方法となっており，評価できる。
- ・生徒が課題を設定し計画を立案し実行するための十分な時間の確保をすることもあわせて検討する必要がある。
- ・課題研究の成果を蓄積し，教員及び生徒が閲覧できるようにしており，評価できる。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・教科連携を数学と理科，英語と理科で実施している点が評価できる。また，各教科で課題研究を意識した授業を実施している。
- ・観点別評価に関する校内研究会は，中学校での観点別評価の事例が参考になるとの実践例が報告され，注目できる。

- ・時間割上で配慮した「課題研究」の文系、理系での同時開講は、クラス替えの影響も受けない工夫であり、評価できる。
- ・課題研究教員研修会を一層充実させるとともに、教員相互の授業参観等の日常的な指導力向上策の導入や、教員の指導力の変容の把握等も期待される。
- ・第2学年での「SS 課題研究」のⅢ・Ⅳの指導体制について、課題研究の質の向上を図るために、例えば、外部人材の適切な活用を図るなど更なる工夫が望まれる。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されていると思われるもののうち、特に程度が高い】

- ・大学だけではなく、企業との連携が進んでおり、評価できる。課題研究の充実に資するような継続的な連携を図ることが期待される。
- ・地元の企業との連携が特に進んでいる。特に、企業の女性技術者からの指導がリケジョ育成に有効に機能している点は評価できる。
- ・地域の中学生在が「課題研究Ⅲ」の授業を見学しており、評価できる。
- ・卒業生をTA等として募集する工夫が進むことが期待される。
- ・外部との連携、地域の特性を生かした連携は、充実している。外部連携を更に広げて課題研究の充実につなげていくことが期待される。
- ・今後は、県内だけでなく県外のSSH指定校との交流の推進も期待される。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・校内において、研究成果の普及に努めている。
- ・WEBページも充実しているが、今後の一層の努力が期待される。
- ・愛知県西三河地区理科教育研究会での取組のように、SSH指定校ばかりでなくSSH指定校以外の学校への情報共有を進め、課題研究の指導のノウハウを幅広く広めていくことが期待される。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・大学等との連携に当たり、管理機関として支援を行っている。
- ・人事面での支援は学校にとって心強いものであり、今後の継続が期待される。
- ・豊田西高等学校の課題研究に関する研究成果を、県内の高校の理数探究基礎や理数探究の開設にどうつなげていくのか県の政策が期待される。

愛知県立半田高等学校（管理機関：愛知県教育委員会）【Ⅱ期3年目】の
中間評価結果について

1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制，成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・客観的評価として民間の検査を毎年実施している。なお，生徒のメタ認知の変容に対する評価方法については，更なる改善が期待される。
- ・SSH部を校務分掌に位置付けた上で，必要に応じてタスクフォースやチームを更に設けて，より多くの教員が関わることができるようにしている点は評価できる。ただし，カリキュラム・マネジメントを意識したSSH運営の具体策についても明らかにすることが望まれる。
- ・仮説の真偽を明らかにするための調査が十分であるか，検証することが望まれる。
- ・地域と学校の特徴を活かして，学校全体でよく取り組んでいる。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・学校全体で主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた指導法の改善に取り組んでおり，評価できる。65分授業の導入については，具体的な効果や導入する条件を明らかにすることが期待される。
- ・「TOK（知の理論）入門」や「パラグラフィティング」等，他校でも実践可能な特色のある教材を開発していることは，評価できる。
- ・カリキュラム・マネジメントの視点を踏まえ，「探究Ⅰ」のテーマ別講座での，理科，数学科，情報科，国語科の普通科目での学習との有機的な連動は，評価できる。
- ・第2学年「探究Ⅱ」について，探究班・探究テーマ決め1時間，探究活動4時間等となっており，課題研究を深化させる上で充分な設定か，検証することが望まれる。
- ・テーマ別講座ごとにルーブリックを作るなど，きめ細かに評価活動を行っており，生徒の自己評価と教員の評価の相関を見るなどの試みは，評価できる。
- ・多くの教員が探究活動に意義を感じており，通常の教科の中でも探究的な学習を行っている点が評価できる。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・「探究Ⅱ」「探究Ⅲ」を全ての教員で指導し、カリキュラム・マネジメントをより意識したSSH運営を目指す体制は、評価できるが、更なる工夫が期待される。
- ・ループリック評価表を開発してPDCAサイクルで改善していることも、評価できる。教員間の理解を深めることがループリックの有効性を高めるためにも重要であることを理解しつつ、今後、ますます充実させることが期待される。
- ・学校設定教科「探究」により、教員内で好循環が起き、指導の在り方などに関する自然な意見交換が起きていると推察される。
- ・意図的に、研修のような形でも指導力向上に更に取り組むことも期待される。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・学校設定科目「プラクティカルイングリッシュ」によるプレゼンテーション能力の向上の効果が見られ、評価できる。
- ・英国の学校との自然科学の共同研究については、十分な時間が設定されているかを踏まえて、より深化させることが期待される。また、タイの学校との取組も評価できるが、その連携の強みを明確にしておくことが期待される。
- ・中学生サマーサイエンスセミナーを新設して、効果を上げていることも評価できる。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・学校設定教科については、複数の教員で受け持っており、授業実施がそのまま研究成果の共有につながっている面がある。ただし、人事異動を考慮した成果の継承について、工夫・改善を検討することが望まれる。
- ・県内外から多くの高等学校等の視察を受け入れていることは、評価できる
- ・開発した教材をホームページに掲載したり、作成したループリック評価表を大学で使用してもらい、改善に活用したりしている点が評価できる。他校での実践事例を収集して、教材の妥当性や活用度合いを把握するなど、更なる取組が期待される。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・県立SSH指定校8校を幹事校とした「あいち科学技術教育推進協議会」に指導的立場として関わり、積極的に情報提供や研究協議の推進を図るよう指導している点が評価できる。

三重県立津高等学校（管理機関：三重県教育委員会）【Ⅲ期 3年目】の
中間評価結果について

1 中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成がおおむね可能と判断されるものの、併せて取組改善の努力も求められる。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制，成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・新設された校務分掌の「「探究」推進部」が学校の核として機能し，SSH業務の整理や精選が進み，教員の負担軽減にもつながっていることが評価できる。
- ・創造性・協働性・課題解決能力を育むことを目的に掲げ，それに沿って事業を進めていることは，評価できる。ただし，それらの定義や具体的な能力・態度を教員・生徒が共通理解できているか，特に創造性をどう育成するか，その評価方法はどうかといったことをよく議論・検証することが望ましい。
- ・課題の抽出・分析やその解決のための工夫・改善も整理して示すことが期待される。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・「地学基礎」の開設が課題研究のテーマ設定やSSCの活動の活性化等につながっており，物化生地のバランスが取れた取組になっていることが評価できる。
- ・多くの科目で探究を取り入れた指導を進めており，評価できる。
- ・「SS探究活動Ⅰ」で「試行的な課題研究」をグループ活動として実施し，「SS探究活動Ⅱ」での文理分けしない班編成の課題研究を実現させている。今後，課題研究の指導での文理分けしない効果の具体的な事例等を示すことが期待される。
- ・課題研究で，教師による生徒の主体性の尊重が認められ，評価できる。ただし，実際の研究テーマを踏まえ，生徒が創造性を十分に発揮しているか，検証が望まれる。
- ・「私の探究物語」は，後輩にとって大変有益な冊子だと考えられる。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・通常の教科・科目との接続等に関する校内指導体制上の一層の工夫も期待される。
- ・前2期の取組の反省を踏まえ，指導体制も十分考えられており，「SS探究活動」の探究活動は全教員が何らかの形で関わっており，異動で新たに赴任した教員もすぐ

- に授業をすることができるよう「リベラルアーツ」等のテキストも充実させている。
- ・全教科での授業公開・互見授業を推進し、教務部がその成果等を取りまとめるなど、学校内外で指導方法に関する研修等の取組を進めており、評価できる。今後、お互いの授業を評価する取組を実践するなどして教員の指導力向上に努め、より探究的な学習へと改善するための工夫点等を見だし、共有・発信することが期待される。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・大学や企業等と積極的な連携事業を展開している。特に、単位認定される、大学との「SS 特別講義」の推進は、学びへの生徒の認識の深化が期待でき、評価できる。
- ・学校設定教科「探究」が充実しており、生徒が主体的に研究機関に連絡して話を聞いたり、フィールドワークで大学を訪問したりしている。
- ・「みえ科学探究フォーラム」を企画・運営するなど、県内の中核拠点校の役割を担っている点が評価できる。
- ・理数系クラブのSSCの活動は活発である。コンテストを目指すだけでなく、様々な活動に取り組んでおり、その点も評価できる。
- ・「SSH 児童・生徒研究発表会」の取組は、小学生から大学生・大学院生までをつなぐ研究発表の場を設け、自校の研究成果等を広報するとともに、縦に研究の考え方をつなげていくものと考えられ、評価できる。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・「リベラルアーツ」、「探究的な活動にかかわる評価表」等のホームページへの掲載等、公表への積極的な取組は、評価できる。ポートフォリオのまとめと位置付けている「私の探究物語」等の公開の検討も期待される。
- ・研究成果の共有・継承がよく考えられている。分掌での取組以外にも学年会での指導案の検討等があり、評価できる。新転任の教師への丁寧な説明も評価できる。ただし、担当する教員の仕事量が過大になっていないか検証することが望まれる。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・非常勤講師の配置や、エントリーによる人事異動制度の活用、ICT環境の優先的な整備等の取組は、評価できる。
- ・「SSH 指定校会議」を開催するとともに、「探究コンソーシアム」で課題研究の指導法や評価法に関する研究協議を行い、「みえ探究フォーラム」を共催するなど、県として積極的に学校間連携に取り組んでおり、評価できる。

三重県立四日市高等学校（管理機関：三重県教育委員会）【Ⅱ期3年目】の
中間評価結果について

1 中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成がおおむね可能と判断されるものの、併せて取組改善の努力も求められる。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制，成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容が十分達成されている】

- ・課題の抽出・分析やその解決に向けての工夫・改善も整理して示すことが期待される。また，成果の分析について，学校全体で共有することも期待される。
- ・学校全体が一体となって事業に取り組んでおり，「SSH 推進会議」，「SSH 探究会議」に新たに学年主任等を加えるなど改善を図っている。今後，教員の理解を深め，負担感や不安感を軽減するための取組を，校務分掌に SSH の推進組織を明確に位置付けるなど体制を強化することの検討を含め，更に進めることが期待される。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容が十分達成されている】

- ・普通科の課題研究として系統性を重視して学校設定科目を設置し，当初から課題研究の指導方法と評価方法の一体化を視野に入れた運営をしており，課題研究の質の向上や育成する資質・能力の深化を図っている点が評価できる。
- ・理科の各領域を横断的に学習できる「科学総合」の開設が課題研究での多岐に渡るテーマ設定等に有効に機能しており，評価できる。その目標・内容・方法等について，具体的に何が多様なテーマ設定に良く影響しているのか，検証が期待される。
- ・第2学年「探究Ⅱ」では生徒の希望に合わせた科目に細分化し，一人1テーマの課題研究を行っている。その指導を円滑に行うため，テーマ設定の過程でのグループでの協議やゼミ活動，失敗経験の重視，進捗状況記入用紙・研究計画書の活用など，工夫した指導を行っている。「探究Ⅱs」「探究Ⅱa」では大学等との連携で専門性の高い課題研究を実現させている。
- ・課題研究での成果を通常の授業改善にも活かすことが期待される。
- ・生徒が多様で独創性のあるテーマを設定している点も評価できる。
- ・探究活動における上級生から下級生への適宜の指導による研究の継続等について，意図的な工夫をしなければうまく行かないことがあり，その点の考慮が望まれる。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・学校全体として、探究活動を楽しむ機運が高まっており、全校的な指導体制が適切に組み立てられている点が評価できる。探究全体の質を上げるために「探究Ⅰ」の指導の充実が期待される。
- ・1名の教員が約20名の生徒を指導することで負担が過大になっていないか、新しい科目への教員の不安・負担感を克服する指導体制をいかに確立するかなどについて、検討することが期待される。
- ・「指導力向上研究チーム」を中心とした校内研修を充実させ、予習型授業や反転授業などについて、積極的にチャレンジしつつ、効果的な活用方法を探っていくことができる校内体制を構築することが期待される。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・国際性の育成について、海外研修が主目的を明確にしながら特徴をもたせて実践されていることが評価できる。ただし、語学力に力点が置かれているものよりも、SSH 米国海外研修のような取組を今後充実させることが期待される。
- ・「SSH 白熱英語講座」、「PDA 高校生即興型英語ディベート」、「エンパワーメントプログラム」等、積極的な事業を展開している点が評価できる。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・研究の成果物を校内の共有フォルダで容易に閲覧できるようにするとともに、教員同士で十分な議論を経て学校設定教科「SSH」を実施しており、評価できる。
- ・「探究」ワークシートのホームページ掲載など普及について具体的な取組が行われている。「探究」の汎用性の高い指導方法、評価方法についての公開が期待される。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・非常勤講師の配置や、エントリーによる人事異動制度の活用、ICT 環境の優先的な整備等の取組は、評価できる。
- ・「SSH 指定校会議」を開催するとともに、「探究コンソーシアム」において課題研究の指導法、評価法についての研究協議を行い、課題研究の成果発表の場として「みえ探究フォーラム」を共催するなど、県として積極的に学校間連携に取り組んでおり、評価できる。

学校法人立命館 立命館守山高等学校（管理機関：学校法人立命館）【Ⅲ期３年目】の
中間評価結果について

1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制，成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・国際部とサイエンス部を独立させた研究推進体制について，どのくらい連携し，成功しているかを明確にすることが期待される。
- ・成果の分析・検証について，生徒の自己評価に重点を置きすぎているのではないか。保護者の意識や教員の参画意識の向上に向けた取組が一層求められる。
- ・中高大院の連携を如何により強化していくのか，一層の具体化が期待される。
- ・運営指導委員会で，どのような議論が展開され，どう改善の方向を打ち出しているのか，具体的に記録し学校全体の取組に生かしていくことが必要である。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・例えば，第2学年から自分でテーマを設定して課題研究に取り組むことで課題研究の質を高めることも考えられるのではないか，吟味することが望まれる。
- ・Thinking Design の設定による課題研究・探究活動の基礎力の養成は，評価できる。
- ・高大接続の Advanced Placement の授業について，方法を変えざるを得なかったのは，科目の設定や講義の方法等に関する連携に課題があったのではないか。
- ・Ⅲ期目として，過去の成果を振り返り，課題研究のルーブリックを早急に精査し，生徒の能力を教師側から評価できるようにすることが期待される。
- ・育成すべき資質・能力と受検させている外部のアセスメントで測ることのできる能力との関係を明確にすることも望まれる。
- ・Ⅲ期目を迎えており，課題研究の質を充実させ，その成果を様々な大会等で積極的に発信し，そのプロセスも含めて他校と共有していくことが望まれる。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・指導力向上の取組の系統化がやや不十分ではないか，吟味することが望まれる。

- ・校内研修等の充実が望まれる。校内研修や公開授業研究会の持ち方，方法などの検討により，イベントではない，定期的・恒常的な指導力向上の取組が求められる。
- ・普段の授業をどう課題研究の質の向上につなげているのか，課題研究を中心とした教員の研修会を充実させていくことが期待される。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・立命館大学との連携は強力だが，**Advanced Placement** 授業の単位取得率の低下が見られるので，高大連携の実質的な充実が望まれる。
- ・高大のカリキュラム編成についての十分な検討と調整を進めることが望まれる。
- ・**Sci-Tech** 部が大人数とは言えず，人数の増加も含めて充実させることが期待される。特に，大学の附属高等学校という特色を生かした幅広い活動を展開し，課題研究でリーダーシップを発揮できるようになることが望まれる。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・発信力は，やや弱いのではないか。例えば，Ⅲ期目にあたり，作成した教材をホームページ等で積極的に公開し，他校でどう活用できるのか，その成果を共有して広めていくことが望まれる。
- ・**Thinking Design** の取組の内容を具体的に公開し，他校でも実践できるように一般化して成果を広めていくことが期待される。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・法人内の附属校，立命館大学の提携校との連携を積極的に進めている。
- ・大学と高等学校との接続部分について，十分な連携ができるよう積極的な役割を果たすことが期待される。生徒が大学の授業を受ける際にその内容や方法について高等学校側と十分な情報共有ができるよう働きかけるなど，高等学校と大学の接続をどう強化していくのか，様々なチャレンジが望まれる。
- ・大学の附属校の強みを生かした追跡調査でその成果を普及することが望まれる。

大阪府立大手前高等学校（管理機関：大阪府教育委員会）【Ⅲ期 3年目】の
中間評価結果について

1 中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成が可能と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制，成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容が十分達成されている】

- ・分析評価の手法や考察も評価できる。研究の PDCA が上手に回ることが期待される。
- ・数学を重視した取組に特徴があり，成果を上げている。第Ⅲ期は事業全体の評価において，丁寧に生徒の変容を見取って行っている点が評価できる。ただし，SST はあくまでアンケート調査であり，他のエビデンスと組み合わせて評価を行うことが期待される

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容が十分達成されている】

- ・理系に特化した課題研究とそれ以外の課題研究をうまく教育課程に位置付けている。ただし，「SS 物理」，「SS 数学 I」等の SS を付した各科目については，通常の科目との違いをより明らかにすることが望まれる。
- ・課題研究の広がりを受けて，各教科でも課題研究で得られた成果としての手法を用いるなど，授業改善が理数以外の科目を含めて波及している点は評価できる。
- ・課題研究に関する取組が期が進むごとに充実していることがうかがえる。生徒が更に主体的に自ら新しいことに取り組むような働きかけが期待される。
- ・評価については，ルーブリックを用いた評価や相互評価も行われている点が評価できる。客観的に，例えば，SST で調べようとしている資質・能力が身に付いているかを調べるものが開発できればより良いと考える。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容が十分達成されている】

- ・全教科の教員で課題研究を指導する体制は，評価できる。
- ・国内外の大学等の研究者の協力を積極的に受けている。身近な外部人材としての卒業生の AT やメンターとしての活用も期待される。
- ・数学分野に特化した取組である「マスフェスタ」，「マスキャンプ」，「プログラ

ミング学習会」等の指導体制も整備・運用されていて評価できる。

- ・生徒の実態からすると、教員が関与しすぎている要素が少し多すぎるのではないかと、吟味することが望まれる。
- ・指導に当たっての授業形態やクラス編成等の工夫も明らかにすることが望まれる。
- ・個々の教員の一層の指導力向上の取組を充実させることが期待される。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されていると思われるもののうち、特に程度が高い】

- ・高校生国際科学会議や数学分野に関する各取組は、ユニークで良いものであり、その成果を含め、評価できる。マスフェスタは、継続的に取り組まれており、参加した生徒の感想も教員を鼓舞するものが少なくないようである。マスカンプは、数学を通して国際性を養おうとするもので特色ある取組である。
- ・国際的な活動が活発に行われ、それを統括する国際教育部が設置されている。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・校内外での資料の蓄積を行いつつある。
- ・課題研究や指導法、教材について、普及のための公開を準備中であり、今後のホームページの更なる充実が期待される。ホームページに加えた更なる積極的な発信が期待される。
- ・研究成果の継承等については、新たに赴任した教員にはオリエンテーションで説明をしているが、研修体制を構築し、それぞれの教員が自らを振り返り、考えを深められるようにしておくことも期待される。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・応募制の人事異動システムを導入するなどして人事等に関する支援を行っている。その点を踏まえると、教員全体のSSH事業への理解がより高いことが期待されるが、現状の分析と改善が期待される。
- ・校長裁量予算を拡大し、予算に関する支援を行っている。
- ・サイエンス・スクール・ネットワーク（SSN）の構築と活用、大阪サイエンスデイの開催、京都・大阪数学コンテストの開催など、生徒と教員の意欲向上と能力伸長策が実行されていることは評価できる。SSH指定校の成果をSSNなどを活用して水平展開し、利用しやすくすることや、成果の定着化に向けた支援策の検討も望まれる。
- ・各校の特徴に合わせた管理機関の取組を明らかにすることも期待される。

大阪府立高津高等学校（管理機関：大阪府教育委員会）【Ⅲ期 3年目】の
中間評価結果について

1 中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成がおおむね可能と判断されるものの、併せて取組改善の努力も求められる。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制，成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・大学のサポートを受けた科学系部活動，同窓会を通じた外部指導者紹介制度等，SSH事業の継続と発展が見られ，評価できる。
- ・前2期での成果と課題を再度確認することが望まれる。
- ・卒業生に対する追跡調査アンケートの実施は評価できる。回収率も，卒業生へのアンケートとしては評価できる。プライバシーに十分な配慮しつつ，過度の負担をかけないようにするとともに，評価項目等も工夫をして，継続が期待される。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・「高津 LCⅠ」～「高津 LCⅢ」で課題研究を段階的にうまく構成している。
- ・「高津 LC」では，テーマ決定のヒントとして各教科で「課題研究中テーマ一覧」を作成するなどし，グループ別にはほぼ自主的に課題設定を行っている。ただし，生徒の主体性が十分発揮されているか等の吟味も望まれる。
- ・「高津 LCⅠ」でサイエンティフィックスキルズを明確にしその育成を考えているが，通常の教科との関係を明確にしてより効果的に取り組むことが期待される。特別活動等でも活用しており，評価できる。探究ノートや課題研究ノートも作成されており，公開するとともに，改善を重ねることが期待される。
- ・理数系教育に重点を置いたカリキュラム編成となっている。また，「高津 LCⅠ」～「高津 LCⅢ」との関連にも配慮した見直し等も行われていて成果が期待される。
- ・評価ルーブリックの改善・改定を継続的に実施しているのも評価できる。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・例えば，「高津 LCⅠ」で理数の教員が全く授業を担当しない学年があるなど，全教員による指導体制に拘りすぎて指導内容に対し適切な指導体制になっていない面が

ないかなど吟味することが望まれる。

- ・外部指導者紹介制度を設けて外部人材を活用している点は評価できる。ただし、的確な指導を実現するために活用されているとは言えない面はないか。課題研究等で組織的に活用するシステムが望まれる。
- ・研究授業の機会も多く、授業改善が行われている。ただし、1回当たりの参加者数はどうか。研修会を行う際の準備や研修会の成果に関する具体的な説明も望まれる。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・海外サイエンスツアー及び東アジア高校生環境フォーラム等を実施している。
- ・大学の設備の利用等、大学と良い関係を築いている。大学（院）生等の意見も得ながら研究を発展させるなど、大学にも実りの多い取組にすることが期待される。ただし、単発のイベント的な印象のものも少なくない。例えば、大学教員による模擬授業も1～2回のものではないだろうか。
- ・国際性の育成について、語学力の強化に偏っていないか。SSHの取組として、海外語学研修ではなく、海外での合同研究のような方向を一層進めるべきではないか。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・研究成果の共有・継承に意識的な取組が求められる。例えば、必要な点が着実に継承されているか、改善すべき点がきちんと伝わっているか、より積極的に研究成果を発信することと併せて何らかの手立てを検討することが望まれる。
- ・「探究活動を進める学校へ」というコーナーをホームページに作成して、課題研究についての教材等を公開している。全体としては課題研究の流れについて他校が活用できる内容を多く含んでおり、成果の普及活動として評価できる。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・各校の特色に沿った管理機関のより緻密な取組が期待される。
- ・応募制の人事異動システムを導入するなどして人事等に関する支援を行っている。その点を踏まえると、教員全体のSSH事業への理解がより高いことが期待されるが、現状の分析と改善が期待される。
- ・校長裁量予算を拡大し、予算に関する支援を行っている。
- ・サイエンス・スクール・ネットワーク（SSN）の構築と活用、大阪サイエンスデイの開催、京都・大阪数学コンテストの開催など、生徒と教員の意欲向上と能力伸長策が実行されていることは評価できる。SSH校の成果をSSNなどを活用して水平展開し、利用しやすくすることや、成果の定着化に向けた支援策の検討も望まれる。

大阪府立四條畷高等学校（管理機関：大阪府教育委員会）【Ⅱ期3年目】の
中間評価結果について

1 中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成がおおむね可能と判断されるものの、併せて取組改善の努力も求められる。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制，成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・文系の生徒への評価も意識することや成果の分析についてルーブリック表を活用すること等の検討が期待される。
- ・「社会貢献への指向性」については，生徒の変容を示すことが望まれる。
- ・Ⅱ期目の3年目としては，体制の整備に時間がかかりすぎていないか。探究ラボの構築に一定の成果が表れているが，課題研究活動を全校体制で指導するという基本的な面の充実が望まれる。
- ・第Ⅰ期の成果と課題や，計画段階でそれらの課題にどう取り組むことになっていたかについて，再度確認することが望まれる。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・第1学年の理数科目に工夫がなされている。教材内容と授業時の工夫によって成果が期待できるので，結果の評価を含めて，PDCAを上手に回すことが期待される。
- ・SSHの特色を踏まえたカリキュラム・マネジメントの構築など，従来の受験・進学指導とは異なった発想がより求められる。
- ・生徒の問題発見力を高める方策を高校合格時から意識的・組織的に講じている。
- ・生徒が主体的に探究活動に取り組めるように，よく工夫された教育が実施されている。「探究チャレンジ」のⅠ，Ⅱ，Ⅲの教材を更に工夫することが期待される。
- ・「探究チャレンジⅡ」では，課題研究グループとSS探究グループとのグループ分けについて，それによって成果が上がりやすいのかを検証することが望まれる。
- ・「探究チャレンジ」と数学や情報以外の教科・科目との連携も図ることが望まれる。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容が十分達成されている】

- ・「オンライン探究ラボ活動」や「教育実習生の協力活動」等の取組について，継続

的にその評価・改善を行うことで有効性を例証することが望まれる。

- ・教師集団が組織的に事業に取り組んでおり、しっかりした指導体制が組まれている。ただし、学校長のより強いリーダーシップの下、文系教員も含めた全校の教師の共通理解を図るよう更に取り組むことが望まれる。
- ・指導体制の中で卒業生が適切に活用されており、その効果が生徒の変容に認められる。生徒は質問をしやすく、大学生活等も具体的に聞くことができ、意欲的に探究活動をすることにつながると考えられる。
- ・課題研究研修会について、教員の理解を進めるために、更に工夫する点がないか、検討することが望まれる。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・大学、企業、地域等との連携を効果的に行い、特徴も認められる。
- ・地元のインターネットテレビを利用した課題研究活動の成果の発表で SSH 指定校の幅広い認知に取り組んでおり、評価できる。
- ・中学校の教師に対する研修や、生徒による中学生向けの出前授業も評価できる。
- ・高大接続の改善について、新たな高大接続システムを考案するなど、「接続の改善」として更なる取組が望まれる。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・教員間での指導の在り方等の継承に工夫して取り組んでいくことが望まれる。
- ・研究開発の成果を広く公開し、全地域の府立高等学校等をはじめ、更に普及することが期待される。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・サイエンス・スクール・ネットワーク (SSN) の構築と活用、大阪サイエンスデイの開催、京都・大阪数学コンテストの開催など、生徒と教員の意欲向上と能力伸長策が実行されていることは評価できる。SSH 校の成果を SSN などを活用して水平展開し、利用しやすくすることや、成果の定着化に向けた支援策の検討も望まれる。
- ・各校の特色に沿った管理機関のより緻密な取組が期待される。
- ・応募制の人事異動システムを導入するなどして人事等に関する支援を行っている。その点を踏まえると、教員全体の SSH 事業への理解がより高いことが期待されるが、現状の分析と改善が期待される。

大阪府立住吉高等学校（管理機関：大阪府教育委員会）【Ⅲ期 3年目】の
中間評価結果について

1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制，成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容の達成が不十分であり，取組の見直しを要する】

- ・内容面で発展が見られず，SSH事業の学校での位置付けを確認し，第Ⅲ期の活動として改善することが望まれる。生徒の主体性を伸ばす方向での検討が期待される。
- ・管理体制が学校全体としてしっかりと機能しているか，吟味が望まれる。校務分掌も，部を置かず，委員会での対応であり，分掌自体の見直しの検討も期待される。
- ・総合科学科と国際文化科の連携について，国際力の育成は国際文化科に，課題研究による探究は総合科学科に、それぞれ偏っていないか、吟味が望まれる。
- ・運営指導委員の意見は，厳しいが有用なものが多い。更に生かすことが期待される。
- ・卒業生の追跡調査にもしっかり取り組むことが期待される。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容の達成が不十分であり，取組の見直しを要する】

- ・質の向上を目指す方向は良いが，課題研究の実施規模，内容・単位数ともに第Ⅲ期の学校として十分か，総合科学科として理数系の人材を育てていく形と考え方が出来ているか，現状の「SSC」の生徒数で理系全体の牽引できるか，吟味が望まれる。
- ・文理協働での研究は重要だが，目的・目標に合せた教材開発，授業開発も望まれる。
- ・課題研究の生徒の研究テーマにも特徴が少なく，生徒の主体性をできる限り生かすような教育内容になっていないのではないか。
- ・部分的探究活動は，通常の教科に探究的な学びを導入する上で可能性が期待される。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容の達成が不十分であり，取組の見直しを要する】

- ・「SS科学」は，実質的には理数を中心とした一部の教員の指導になっていないか，

教員全体への広がりがあるのか、吟味が望まれる。行事・部活動等も含めて、より多くの教員が関わることで学校全体を元気にしていく雰囲気醸成が望まれる。

- ・SSHでどう生徒を育てるかについて、改善は見られるものの、第Ⅲ期としては理念・方法の両面で今期の立上げ時の準備が弱かったのではないかと、吟味が望まれる。
- ・教員の指導力向上について、授業研究会を含め、更に積極的な取組が期待される。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・SSEの取組は成果が期待できて、評価できる。国際性の育成については、大学と共催の国際科学発表会・国際交流会を更に発展させるなど、更なる工夫が期待される。
- ・事業がイベント的な取組中心になっていないか。生徒の主体性を踏まえた特徴のある取組にすることが望まれる。第Ⅲ期であることを踏まえ、更に発展させて高大接続の改善などの取組を行うことも期待される。
- ・住高支援ネットワークを生かし、卒業生を活用してSSH事業での取組を充実させることが期待される。
- ・地の利を生かして企業訪問を更に充実させ、各教科の学習内容の意味を再発見したり、社会課題を見いだすことにつなげることも期待される。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・SSH活動の成果物が活用されたり、円滑に継承されたりするため施策が実行されていて評価できるが、第Ⅲ期として成果の普及を速やかに図ることが望まれる。
- ・課題研究QCC等による共有や、教員研修等による継承により、より積極的に研究成果の共有・継承を図ることが期待される。
- ・評価を充実させて、指導の一般性を検証し、普及を図っている点は評価できる。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・応募制の人事異動システムを導入するなどして人事等に関する支援を行っている。その点を踏まえると、教員全体のSSH事業への理解がより高いことが期待される。現状の分析と改善が望まれる。
- ・サイエンス・スクール・ネットワーク(SSN)の構築と活用、大阪サイエンスデイの開催、京都・大阪数学コンテストの開催など、生徒と教員の意欲向上と能力伸長策が実行されていることは評価できる。SSH校の成果をSSNなどを活用して水平展開し、利用しやすくすることや、成果の定着化に向けた支援策の検討も望まれる。
- ・各学校の独自性を活かし支援が期待される。学校全体として組織的に取り組んでいく観点での指導・助言の充実が望まれる。

兵庫県立神戸高等学校（管理機関：兵庫県教育委員会）【Ⅳ期 3年目】の
中間評価結果について

1 中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成がおおむね可能と判断されるものの、併せて取組改善の努力も求められる。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制，成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・学校全体でSSHとしての計画が綿密に生まれ，成果の分析も，在校生だけでなく，卒業生も加えた経年変化を質的・量的に分析する取組は評価できる。
- ・探究力を育成するために具体的な8つの力を明確にして育成を図る方向性はよく考えられている。ただし，「問題を発見する力」や次の「未知の問題に挑戦する力」の育成状況を踏まえると，教育内容や指導體制の見直しが必要ではないか。また，項目が多すぎると思われる点等も，吟味して改善することが望まれる。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・生徒の主体性を考慮すると，総合理学科の課題研究のテーマ数は改善が望まれる。
- ・普通科は，1年間のみ課題研究で効果があるのか，より詳細な分析が望まれる。
- ・理数以外でも家庭科や保健体育科の保健等で探究的な取組を行っている。また，総合理学科の各専門科目では，反転学習等の工夫を行い，普通科へも拡大している。
- ・生徒中心ではなく，事業実施のために教育内容を準備するという側面が強く，目的にあるような生徒の変容に繋がっているか，吟味することが望まれる。
- ・探究科目で他の科目との連携・接続を図り，系統的・継続的にカリキュラムが運用されるよう編成している。本校の探究の独自性等の発揮に向けた改善が期待される。
- ・実験パックは，良い試みだと思うが，探究活動としての特色等を明らかにし，探究科目をよりサポートできる教材キットへと改善していくことが期待される。
- ・SSHで培った探究活動のプログラムの汎用化について，理数数学等の科目で，8つの力の育成に関する自己評価と今後の課題が整理されている点等は評価できる。

③ 指導體制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容が十分達成されている】

- ・理数英の教師を中心としつつ，全ての教師による指導體制を編成している。

- ・課題研究のグループのレベル差にどう対応し、改善しようとしているのかも明らかすることが期待される。
- ・普通科2年生全員が行う「神高ゼミ」では、学年・教科を超えた教師が担当し、今年度からアドバイザー制度を取り入れ、生徒が授業担当者以外の教師からも直接指導を受けることができる体制を構築し、学校全体での探究活動を推進している。
- ・課題研究の支援を大学教員のサイエンスアドバイザーから受けている。また、OBネットと課題研究支援に関する「覚書」を交わしており、サイエンスアドバイザーとして「シニア人材」と「ヤング人材」に来校してもらい、継続的な支援を受けている。なお、学校として、教育や活用の方針をしっかりと固める配慮が望まれる。
- ・総合理学科では、少人数のクラス編成を実施しており、探究だけでなく、観察や活動などが計画・実施しやすい環境を整えていることも評価できる。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・高大連携に関する開発の成果を踏まえて、高大接続に対する開発の推進が望まれる。
- ・大学との連携が単なるイベントではなく、探究も含めた継続的な連携になっており、評価できる。ただし、目的にある生徒の変容に効果的な活用か、吟味が望まれる。
- ・理数系部活動は、活発に活動しており、研究発表等で成果を上げている。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・自作の教材も数多く作成、公開しており、また、実験パックの貸出しなども行っており、他校も含めた普及・啓発に力が注がれていることも評価できる。
- ・校内のサーバーに、これまでのSSH事業に関するファイル、データ等を整理し、担当者以外にも情報等を得ることができる点が評価できる。
- ・成果の公表について、QRコードにより、閲覧する機会を増加させる取組を行い、実際に結果として表れており、評価できる。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・今後は、SSH指定校以外や域外への効果の浸透についてのシステム化のモデルとなることが一層期待される。
- ・資料・教材を「成果の普及 Web サイト」に公開する努力を続けている。
- ・教育委員会が主導して、県内の理数教育の充実のため、本校をその中核とするプログラムを実施して、推進していることがうかがえる。SSHの指導・サポートだけでなく、県内への普及・啓発をしようとする努力は評価できる。

兵庫県立龍野高等学校（管理機関：兵庫県教育委員会）【Ⅱ期3年目】の
中間評価結果について

1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制，成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・前期の反省の上に立ち学校体制をより確かなものになっていると思われる。
- ・成果の分析については，検討が望まれる。卒業生アンケートの実施によるSSH探究活動の成果の確認等は，研究推進の力になると考えられる。生徒のアンケート結果は悪くはないが，アンケート以外のデータも期待される。
- ・生徒の探究過程の可視化という方向性は評価でき，それへ向けての取組が行われている。その成果が十分認められるようにすることが期待される。
- ・事業実施に当たり，教員の関与が過度になっていないか。
- ・目的や目標を達成するために，具体的に何を実施して，何が実現できたのか，吟味して十分に示すことが望まれる。
- ・運営指導委員の意見は厳しいが有益であり，今後，一層生かすことが期待される。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・総合自然科学科の教育内容について，個々の生徒へのヒアリング等の評価できる取組が多くある。普通科に反映させ，その教育内容を向上させる取組が望まれる。
- ・ルーブリック表の作成や評価の研究を適切に進めることが望まれる。作成したルーブリックの基準（段階）について，生徒の実態に合わせて改善できるようなシステムの検討が期待される。
- ・「探究ノート」の継続的な改良や活用等が進められていることは評価できる。
- ・生徒の主体的な取組の要素は認められるが，課題研究を通して生徒がどう変容したか、目標に掲げた4つの力の育成状況を分かりやすく示すことが期待される。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・課題研究も課題研究を補足する学校設定科目も全校体制が確立されており，また，

教科間連携の TT による学校設定科目の推進と、外部人材の活用による「実践科学」の講義は成果が期待できる。ただし、外部人材の活用については、例えば卒業生を活用するなど更なる工夫の検討も期待される。

- ・校長のより強いリーダーシップの下、教員間の共通理解の一層の醸成が期待される。
- ・指導体制が適切に機能しているか、吟味することが望まれる。
- ・通常の各教科の授業について、授業研究会を立ち上げ、積極的に授業改善を図っている点が評価できる。授業研究は、各教科の課題を抽出し、授業を参観して研究協議を行うなど充実したものになっている。
- ・ワークショップ型の研修を行うなど、教員研修は充実しており、評価できる。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・おおむね適切であるが、更なる取組が望まれる。OB の研究者をより活用することも期待される。特に、関西近辺のネットワークがあると考えられる。
- ・地域等との連携や、課外活動は積極的に行われているが、一層の工夫が期待される。
- ・今年度は新型コロナウイルスの感染拡大の影響が大きかったと思うが、自然科学部への参加生徒が増えるような取組が期待される。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・特色ある教材開発が行われ、改良を重ねながらも、ホームページで公開して活用を促していることは評価できる。多くの活動の積極的な公開も評価できる。ただし、ホームページの作り方等に更なる工夫が期待される。
- ・研究成果の共有・継承について、教師をペアにして経験年数が少ない教師に経験年数の多い教師がアドバイスできるようにしている。留意すべきことなどを整理して公表することで、多くの学校の参考になると考えられる。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・教育用クラウドサービス、デジタル採点システム等、教員支援策を実施している。
- ・県として学校と生徒の活動を支援する体制は整えていると評価できる。
- ・研究成果の普及・発信に良く取り組んでいる。兵庫「咲いテク」事業等は既に実績を積み重ねており、「Science Conference in Hyogo」は参加者が増加している。
- ・複数の大学と教育委員会が連携協定を結んでいる。SSH 指定校を含む 19 校が課題研究の口頭発表を行い大学教員等から指導を受ける取組も評価できる。高大接続に向けたなお一層の連携深化を図る施策の検討も望まれる。

学校法人奈良学園 奈良学園中学校・高等学校（管理機関：学校法人奈良学園）【Ⅱ期3年目】の
中間評価結果について

1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制，成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・教員の意識を確かめるアンケートは本年度から実施することが望まれる。
- ・校長のリーダーシップの下，全員による推進体制をとっており，評価できる。
- ・第3学年でも課題研究を実施するSS発展コースの人数が限られており，質と量の充実を図るとともに，課題研究における全体の核となるような人材を育成していくことも望まれる。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・データサイエンスを学ぶ学校設定科目「文系科学探究」を設置し，生徒全員が課題研究に取り組むカリキュラムを編成したことは，評価できる。SSHⅡ期目にあたり課題研究の質をどう高めていくのか具体的な方策が求められる。
- ・一つ一つの取組をどう課題研究につなげていくのか，普段の授業と課題研究のつながりをどう構築していくのかなど，各取組を有機的につなげていくことが望まれる。
- ・「文系科学探究」で，数学科と地理歴史科・公民科の教師が連携し，取り組んでいることは評価できる。
- ・「SS発展」では，「グローバルユニット」と「サイエンスユニット」の2ユニットを設定し，少人数指導でより深化した探究活動を行えるように改善している。コース制が上手に活用されているものと見受けられる。
- ・「教員用ルーブリック」の試みについて，その詳細を公表することが期待される。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・学外サイエンス学習と，SS課題研究基礎プログラムの実施は，評価できる。
- ・卒業生組織「矢田の丘里山支援チーム」のメンバーをはじめ，大学の教員やNPO法人職員等の外部人材を活用している。

- ・担当教員は、理科教員以外に、SSH 部教員や学年担当教員も関わっており、全教員が指導に関わるよう編成しており、評価できる。
- ・課題研究の質を高めるために、学校全体として組織的かつ継続的な教員の研修が望まれる。特に、課題の設定に生徒が主体的に取り組めるよう指導するための研修を充実させていくことが求められる。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・「SS 研究チーム」の設定は、評価できる。
- ・地域交流事業「奈良学塾」で、地域の小学生とその保護者を招き、校地の里山で自然に親しむ「里山教室」や、科学の不思議を体感的に学ぶ「小学生科学教室」を実施している。
- ・科学部の生徒が課題研究に積極的に取り組み、学校全体の取組を引っ張っていけるような存在となることが期待される。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・「近畿 SSH 環境活動フォーラム」の開催を通して、他校との連携を深め、これまでの環境活動の成果の普及に努めている。
- ・校務分掌としての SSH 部に校内で最多の教師を配置している。SSH 部には理数系以外の教師も配置し、共有・継承を図っている点が評価できる。
- ・ホームページ内を事業ごとにまとめ、行事完了後にアップロードしている。なお、教材や生徒の論文等の公開が現時点では少ない点は、改善が望まれる。
- ・積極的に課題研究の教材開発等に取り組み、その成果を他校に広げるなど、Ⅱ期目にあたり成果の普及を積極的に図ることが望まれる。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・管理機関は、講師時数の加配や SSH 関連予算の増額等を通して、指導体制の充実に関して支援しており、評価できる。
- ・学園広報誌への掲載と配布を実施することで、地域への情報発信に努めている。また、「近畿 SSH 環境活動フォーラム」を支援している。
- ・卒業生が学校の SSH 事業に参画することによって卒業後も成長できるシステムの開発はとても有意義な取組であり、管理機関の全面的なバックアップにより、継続的な取組となることが期待される。

学校法人鶏鳴学園 青翔開智中学校・高等学校（管理機関：学校法人鶏鳴学園）【I期3年目】の
中間評価結果について

1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制，成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・探究部には，校長，図書館司書，国語科教員，英語科教員が所属し，SSHの研究開発が学校全体の取組となるよう工夫していることは評価できる。
- ・第I期の3年間で，探究基礎の開発については，IからVを開発し，ルーブリックやワークブック等を作成，活用して，着実に実施している。ITを活用した新しい評価方法の開発が進んでいる。
- ・生徒と計画自体をどの程度共有しているのか，吟味することが望まれる。
- ・科学技術系人材の育成を目指して全教職員で生徒の課題研究の質を高める取組となっているかを常に検証して，取組が形骸化しないようにすることが求められる。
- ・小規模校の特色を生かした特徴的で組織的な取組が求められる。
- ・SSH3年目となっても理系の生徒の割合が伸び悩んでいることを様々な角度から検証することも望まれる。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容の達成が不十分であり，取組の見直しを要する】

- ・評価が指導につながっていないように見受けられる。吟味することが求められる。
- ・中学校から段階的に人材を育成する6年間の教育課程を編成し，それに基づく着実な教育を実施している。ただし，理科や数学と関連した教育内容の構築が十分とは言えず，改善が望まれる。
- ・「探究基礎」の開発が課題研究のテーマ設定にどうつながっていくのか，調べ学習のレベルからどう質を高めていくのか，具体的な道筋を示すことが必要である。
- ・課題研究のテーマに理数系のテーマが多数挙がるような仕掛けを構築することも求められる。普段の授業をどう展開し，どう課題研究につなげていくのか，全ての取組を有機的につなげていくための仕掛けが期待される。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・「探究基礎Ⅴ」で、教師1人が2～3名の生徒を担当し、担当教師と生徒の議論の内容や進捗の様子を電子ファイル上に記載している点は、評価できる。他校の参考となるように、生徒のプライバシーを尊重しつつ、公開することが期待される。
- ・「探究スキルラーニング」に常勤の教師全員が関わることは、評価できる。教師の少なさを踏まえ、より外部人材の活用を図り、教育力を高めることも考えられる。
- ・生徒が主体的に課題設定できるような指導体制になっているのか、1学年40名前後という少人数ならではの特徴を生かした指導体制になっているのか、科学技術系の人材育成に照らして学校全体で検証し、生徒一人一人の可能性を伸ばす指導体制を構築することが望まれる。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・鳥取県内の特別支援学校・県庁・市役所・企業等との連携が行われている。
- ・SSHカンボジア海外研修旅行では、「探究基礎Ⅳ」と連携し、現地企業・大学で英語でプレゼンしているが、普段から交流を図り、課題研究の質を高めることにつなげていくことも考えられる。
- ・今後、AIや情報科学に関して、先進的な国の学校等との交流も期待される。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成が不十分であり、取組の見直しを要する】

- ・成果の普及・発信が不足しており、早急に改善が求められる。
- ・作成した教材等がホームページ上で閲覧できないことについては、早急に取り組むことが求められる。
- ・探究スキルラーニングについて、一部の授業でも良いので詳細を公表し、他校の参考となるようにすることが期待される。他校でも活用可能な教材をホームページ等で公表することが望まれる。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成が不十分であり、取組の見直しを要する】

- ・教員数の増加は、評価できる。
- ・予算面や人事面の支援を強化するとのことである。よりSSHにふさわしい科学技術系の人材の育成を目指した取組になるよう、しっかりとした支援が望まれる。

島根県立出雲高等学校（管理機関：島根県教育委員会）【Ⅱ期3年目】の
中間評価結果について

1 中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成が可能と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制，成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容が十分達成されていると思われるもののうち，特に程度が高い】

- ・第Ⅰ期との継続性を踏まえつつ，校長のリーダーシップの下，適切に進めている。
- ・生徒の自己評価の伸びや，教員の良好な意識変化が見られ，評価できる。
- ・新型コロナウイルスの感染拡大の影響への対応，教頭をリーダーとする改善対応チームの編成等，取組状況の把握，解決に向けた様々な取組が実施されている。
- ・生徒意識調査，民間のモニターテストによる思考力評価，県の高校魅力化評価システム，教職員意識調査等，多角的に成果を分析している点が評価できる。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容が十分達成されている】

- ・「指導改善 PDSA サイクル」は，特色のある取組である。探究学習・教科学習等で育みたい学びの姿勢を明確に示し，SSHのねらいとする方向を徹底していること等は，評価できる。「全ての教科で積極的に探究的な学習過程を取り入れる」こととし，全ての教科で「教科のSSH化」を目指しており，評価できる。
- ・「デザイン思考」の課題研究過程での活用や，「身近な気づきや心の動き」等の可視化は，特色のある取組である。「デザインズム」では，学校外での発表の機会を設けて第3学年まで指導し，その成果を多様な評価法から分析している。
- ・「新型コロナウイルスの正しい理解のためのオンライン英語教材」も，評価できる。
- ・学習センターとしての図書館のSSH事業における積極的な活用が進められている。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容が十分達成されている】

- ・本校のSSHの特色である全校指導体制「出雲モデル」がⅡ期目になり進化している。課題研究での全教員の役割を明確にし，校内アドバイザー教員，SS授業担当教員，ゼミ主担当教員等が相互に連携し，総動員で指導する体制の構築は，評価できる。

- ・多くの教師が SSH の重要性を意識して、カリキュラム・マネジメントを考えて取り組むことは、SSH 校の姿勢として評価できる。
- ・普通科理系クラスの SS 授業に探究活動専任の理科非常勤講師を配置した TT 等の指導体制の組織化とともに、校内研修や担当者の定期的な会議等により教員の指導力向上を図っている。新型コロナウイルスの感染拡大への影響による ICT 研修も、評価できる。
- ・研究過程をオンライン上で共有し、指導教員が閲覧できるようにしている。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・学校全体での科学への関心を高める取組、将来世界で活躍する科学者の養成プログラム等が順調に進められていることがうかがえる。様々な学会に参加・発表するなど、生徒の研究の成果を広く外部に発信している。
- ・大学教員や院生の来校やオンラインを活用した課題研究のアドバイス等、大学や研究機関、企業等との連携を進めており、評価できる。ただ、高大接続の研究は、積極的には推進されていないようである。
- ・異なる研究題目で多数の受賞があり、自然科学部の活動が成果を上げている。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・学校文化としての OJT の推進は、評価できる。課題研究に関する教職員研修を年間 3 回実施し、うち 1 回は、大学教員を招いて生徒と同時に研修する形態をとりつつ、いずれは本校教員で指導できることを目指していることは、評価できる。
- ・教員による成果の発信、新規 SSH 指定校の教員研修の受入れ等、成果の普及に努めている。ホームページの活用が不十分だった反省を踏まえて、改善を図っている。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・SSH を所管する部署のスタッフに加えて、課題研究を推進する部署や個々の学校の教育活動を支援するためのチームを設置し、学校をサポートしており、評価できる。
- ・SSH 指定校に理科教員 1 名を加配するとともに、課題研究の専門的な指導ができる理科のベテラン教員 2 名を非常勤講師として配置しており、評価できる。
- ・理数系教育のモデルとして成果を積極的に広めることが期待される。
- ・探究学習及び教科学習の充実の支援のネットワーク環境の整備、高校魅力化評価システム構築による「組織の現状を見える化」等の試みは評価される。探究学習の主担当者の研修を必修とし、探究的な学びの推進を支援しており、評価できる。
- ・地元の大学との連携協定を締結し、各学校への支援体制の構築を図っている。

国立大学法人広島大学附属高等学校（管理機関：国立大学法人広島大学）【Ⅳ期3年目】の
中間評価結果について

1 中間評価の結果

優れた取組状況であり，研究開発のねらいの達成が見込まれ，更なる発展が期待される。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制，成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容が十分達成されている】

- ・生徒の変容，教員の取組意欲，全体の組織的な体制等，多くの面で，順調に推移している様子が見受けられる。他校の参考となる運営の仕方を示すことが期待される。
- ・SSHの効果を教師が認識し，授業改善・指導改善の意識が高まるなど，好循環が生まれている。
- ・卒業生との連携も興味深い取組であり，追跡調査の実施は，評価できる。
- ・科学コンテストへの参加状況等や生徒のルーブリック評価，教職員や保護者の意識調査，卒業生追跡調査等で成果を分析し，改善を試みており，評価できる。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容が十分達成されている】

- ・学校設定教科「SAGAs」を設置して，教科融合型授業を運用し，課題研究に高大連携・接続を組み込んだ「課題研究の高度化プログラム」，海外連携を組み込んだ「課題研究の協働プログラム」を実施し，カリキュラムを展開しており，評価できる。
- ・自校の強みを統合・発展させたカリキュラムを編成している。「探究する」ことを教育活動の中心に位置づけており，教科の中でも生かしている。
- ・3年間にわたる主体的・自律的な課題研究を実施しており，評価できる。特に，テーマ決定の過程では，生徒の研究計画調書をもとに，生徒と教員が毎週議論し，修正・改善を繰り返していることは優れており，評価できる。
- ・課題研究に関する各科目で，学期ごとに，同じルーブリックで，全生徒の自己評価・全教員の評価を実施しており，評価できる。
- ・課題研究の過程で現れる動詞を卒業生調査から抽出し，通常の授業へ還元し，「探究的な学び」に取り組んでおり，評価できる。優れた研究者のファクターも比較するのはどうか。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・「AS 科学探究 I・II」を理科・数学科の全教員、「GS 総合科学探究 I・II」を全教科・全教員でそれぞれ指導・評価にあたっており、評価できる。
- ・広島大学からの特別講義の講師派遣や実習指導等の体制を整えており、評価できる。
- ・若手教員の課題研究に関する指導力向上に向けた取組、授業研究会等の実施による教員の指導力向上の取組が実施されている点が評価できる。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されていると思われるもののうち、特に程度が高い】

- ・広島大学と高大接続の研究を進め、広島大学 AP を開始しており、評価できる。今後、その取組の成果や課題等の評価が期待される。
- ・韓国、タイとの4校でネットワークを形成し、課題研究の国際化を図るプログラムも評価される。生物、化学、数学の各分野での共同研究の開始は、評価できる。
- ・国際的なルーブリックの運用は、今後の発展が期待される。
- ・科学研究班・数学研究班の全研究グループを対象に、校外の発表会へ参加すること等を必須としており、評価できる。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・校内での研究成果の共有・継承について、毎週の進捗状況等や2年 AS コース生徒作成の「SSH 通信」の全教員へのメール通信、SSH のワーキンググループや研究部への若手教員配置等により実施しており、評価できる。
- ・教師用課題研究指導書「広大メソッド」等を開発し、SSH 事業として開発した学校設定教科に関する教材等はホームページに公開しており、評価できる。
- ・公開授業や教員による実践発表等を積極的に行うなど、成果の普及に努めている。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・広島大学に高大接続・入学センターを設置し、AP 導入等を推進している。
- ・数名の大学教員を研究協力委員とし、カリキュラム開発やシラバス作成、授業改善への指導助言を行うとともに、SSH 指定のインセンティブとして副理事裁量経費から予算措置をし、研究推進の支援を行っている点が評価できる。大学に科学教育の研究者が多いので、附属学校に更に協力できる体制が期待される。

山口県立下関西高等学校（管理機関：山口県教育委員会）【1期3年目】の
中間評価結果について

1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制，成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・「ユニットカリキュラム」，「リレー探究」，「教科横断学習」等の関連が理解しにくい。相互の関係を明確にしながら，考え方を整理することが望まれる
- ・全ての教員が取組を理解し，実施する全校体制を構築しているようである。ただし，探究活動に取り組む中で，教材研究で負担感が生じていることは，残念である。
- ・SSHの指定以来，理系を選択する生徒が増加しており，評価できる。
- ・各教科1名の教員が参加するSSH推進室を設置し，中核としているほか，SSH推進委員会，運営委員会を設置して，SSH事業の推進，管理が行われている。
- ・定期的なアンケート調査を実施している。客観的な評価方法の検討が望まれる。
- ・令和元年度第1回運営指導委員会はSSH3校合同だが，十分な効果が得られているのか，吟味することが望まれる。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・SSHの指定に併せて，学校設定科目「基礎探究」の単位数を増加している。
- ・普通科での課題研究について，SSHとの関連をより明確にすることも期待される。
- ・教科横断・文理融合学習により探究活動を推進するレインボープログラムを実施している。従来の受験・進学指導とは異なった発想をより重視し，SSHの中でのカリキュラム・マネジメントについて検討することが望まれる。
- ・学校設定教科「探究」では，3年間を見通した課題研究のための科目編成となっている。ルーブリック評価表を用いて生徒に身についた力を評価しているが，他の科目でも評価法の開発が期待される。また，第3学年は，研究成果の発表に留まっており，探究力育成ステージとして高度な取組が望まれる。
- ・第1学年で，社会の事物・現象を直接経験する機会から課題を主体的に発見し，解決する方法を考えるとしている。単なるイベントにならないような配慮が望まれる。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・「探究」のカリキュラムは、全教科の教師が連携しつつ指導しており、評価できる。
- ・社会の情勢にいち早く対応できるよう柔軟に研修を立案するとともに、そうした成果の普及のために「やまぐち ICT オンライン研究会」を立ち上げ、山口県内の教員の資質・能力の向上に取り組んでいることは、評価できる。
- ・文系教科の教師も SSH の意義を理解し、積極的に関わる体制づくりが期待される。
- ・授業を互見する雰囲気を醸成しており、評価できる。課題研究の校内研修を年に数回、定期的実施するなどして、指導力の一層の向上を図ることが期待される。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・地域の大学、博物館、企業等の教育資源と連携した学習プログラムに取り組んでおり、より積極的に推進することが期待される。
- ・地域の児童生徒に探究活動の魅力を伝える活動は、評価できる。
- ・課題研究に向けた取組を、様々な大学等と連携しながら進めており、評価できる。
- ・「グローバル人材の育成」を研究開発課題に掲げ、「国際協働実践力」を育成するため、様々な取組が実施されているが、更なる工夫、改善・充実が期待される。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・学校内での研究成果の共有・継承に、一層工夫した取組が望まれる。
- ・ホームページやチラシ等で学校の取組を広報している。こうした取組が一層充実することが期待される。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・本校を含めた県内7校の高等学校を「やまぐち次世代型教育推進事業」における研究指定校に指定し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた研究開発を推進しており、評価できる。
- ・県内への SSH の意義の波及が期待される。特に、九州と中国地方の特色を生かして、県内での SSH 指定校の有機的な在り方を検討することが期待される。
- ・SSH 指定校での勤務経験を有する管理機関経験者を管理職に充てるなど、SSH 指定校に対する人的支援を行っている。
- ・「やまぐち理数教育推進協議会」を設置し、「探究学習成果発表大会」を開催している。全体の構想と SSH 指定校の役割を明らかにすることが期待される。

徳島県立城南高等学校（管理機関：徳島県教育委員会）【Ⅳ期 3年目】の
中間評価結果について

1 中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成がおおむね可能と判断されるものの、併せて取組改善の努力も求められる。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制，成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・ 全生徒を対象にした取組で，事業計画に沿った進捗・進展が見られ，評価できる。
- ・ 卒業生への追跡調査による事業成果の検証とフィードバックにも期待がもてる。郵送調査で行おうとしているが，状況が十分ではなく，改善が望まれる。長い歴史をもった研究なので，同窓会等とも連携して進めていくことが望まれる。
- ・ ルーブリック評価や一枚ポートフォリオによる面談指導体制も発展が期待される。当初の計画によりしっかり事業を進めている。ただし，普通科での取組内容の強化が期待される。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・ 全生徒に探究活動の時間が設定されている。特に，応用数理科の課題研究に関する学校設定科目は，「Science English」との組合せのほか，指導方法等にも特色があり研究の成果が期待できる。
- ・ 探究活動に活用できる専門的知識や数学的技能を関連付けた学習形態の工夫等に特色があり，成果が期待できる。
- ・ ローソクテストの活用について，例えば，規格化をして各生徒のゲインの状況を調べるなど更に取組を進めることが期待される。
- ・ 普通科の探究活動のテーマには，いわゆる文系的なものが多いように見受けられる。多少なりとも数学や理科を使うような探究活動になることが期待される。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・ Ⅳ期の指定として適切なものになっていると評価できる。
- ・ 校時の中にSSH事務局会議を入れ，定期的に行うようにしたことや，各学年で探究活動推進チームを組織したことなど、教員間の連携をよく図っている。

- ・全校体制で各種の取組を行っていることがうかがえる。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容が十分達成されている】

- ・小・中学生への実験教室等を行い，その成果が応用数理科への進学につながっていることは，評価できる。地域の理数教育の核となっていることがうかがえる。
- ・対外的な発表会に積極的に参加していることがうかがえる。そこでの経験をその後の活動にも生かせるような指導が期待される。
- ・科学部が充実しており，普通科の生徒も含めた積極的な活動がうかがえる。教師に促されるだけでなく，自分たちで考えながら活動を進めていくことが期待される。
- ・科学部は，応用数理科生徒のリーダーシップ育成や，継続研究の推進・深化などに成果が期待できる。科学オリンピック等にも多く参加し，優秀な科学論文を生徒たちが書くなど，良い実績を上げており，評価できる。科学オリンピックの参加者への事前指導体制も生徒の意欲を引き出す上で評価できる。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・中学校への広報を行い，応用数理科の進学へとつなげており，評価できる。
- ・研究成果の活用と公開に関しては一層の工夫が望まれる。
- ・校内での情報交換や探究活動の手法の共有ができていることは評価できる。
- ・高等学校での「一枚ポートフォリオ」の活用事例は，参考になることが多いと考えられるので，今後，その取組を積極的に他校へ発信していくことも期待される。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・課題研究の指導に実績があったり，前向きに取り組んでいたりする教師を優先的に配置するなど，人事への配慮も行われており，評価できる。
- ・管理機関がSSH成果物の水平展開の仕組みの構築を検討することで成果の有効な利用が期待できる。その際，例えば，成果物について，各学校の実情に合わせた修正等を適時行うことができるなど，活用性の高い形態でまとめることや，常時全体をメンテナンスする体制を構築していることが望まれる。
- ・「一枚ポートフォリオ」やループリックの活用等の本校の研究成果について，管理機関としても，県内の他校の教師に広く発信していくことが期待される。

愛媛県立宇和島東高等学校（管理機関：愛媛県教育委員会）【Ⅱ期3年目】の
中間評価結果について

1 中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成がおおむね可能と判断されるものの、併せて取組改善の努力も求められる。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制，成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・ 課題研究の質の向上をテーマに掲げ，様々な取組を充実させるとともに，一つ一つの取組をつなげていくことで課題研究の質の向上につなげている。
- ・ 第1学年の課題研究導入「RSⅠ」で，担当者会を密に行い，リーダーを置いて深化を図っている。理系の課題研究のレベル向上を図ることで，生徒や教員の変容に好影響を与えており，評価できる。
- ・ 全体総括を校内SSH運営委員会で行い，SSH推進課が各担当をきめ細かく分担しつつ推進・管理の中核的役割を担い，学校全体で取り組んでおり，評価できる。SSH推進課の定例会を毎週火曜日5限に実施している。
- ・ 運営指導委員会での議論を大切にして，その議論を実践に結びつけて取り入れていることも評価できる。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・ 「RS探究Ⅰ」「RS探究Ⅱ」など課題研究につながるような科目を設定していることは評価できる。各教科と課題研究の取組もつなげていくことが期待される。
- ・ ポートフォリオを電子データとして閲覧できるデータベースを作成しており，評価できる。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・ 教科間の連携をよく行うとともに，外部人材を活用するための組織的な運営ができている点が評価できる。
- ・ 他校視察を校内の課題解決のために目的をもって実施しており，データサイエンスの指導に生かすなど，評価できる。
- ・ 毎年の全教員対象の課題研究指導力向上研修会や，「RSⅠ」担当者対象の課題研究

の指導に関する研修会を実施するなど、様々な研修を企画して教員の指導力向上を図っていることは評価できる。

- ・課題研究等の各取組を行うに当たって教員の情報共有が頻繁になされている。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・大学院生を活用した宇東サイエンスメンター制度の実施をはじめ、地域の大学、研究機関、SSH 指定校等からの支援が十分得られており、評価する。
- ・大学との連携により、研究室体験研修を2日間でを行い、その成果を3日目に発表するプログラムを実施している。
- ・国際性を高めるために大学の留学生を活用している。
- ・CLAIR シンガポール事務所との連携ができており、今後、海外の連携高校との取組の充実が期待される。
- ・宇東 SSH 小学校出前講座を理系部活動において実施している。
- ・メンターリストに多くの卒業生のデータを蓄積していることは、今後様々な可能性を広げることにつながると期待される。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・本校独自の取組の構築に向けておおむね良い研究活動ができているが、今後、他校でも活用可能なものへとブラッシュアップしていくことが期待される。
- ・「課題研究に取り組む生徒たちに教員はしっかり寄り添い、生徒が楽しく活動できる雰囲気醸成する」との姿勢は評価できる。
- ・ベテランと若手の教員がペアを組んで一つの業務を遂行し、持続的な取組ができるようにするなど、様々な工夫が見られる。
- ・過去の取組をいつでも入手できるよう、電子データで整理し校内で共有している。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・理数教育の充実のために教員1名を加配している。
- ・高大連携についての協定を教育委員会が結んでおり、評価できる。
- ・えひめサイエンスリーダースキルアッププログラム事業で、SSH 指定校以外の教員を含め、課題研究に関する指導力向上を図っており、評価できる。「理数探究基礎」や「理数探究」の開設等、課題研究の充実につながっていくことが期待される。
- ・えひめスーパースクールコンソーシアムは、かなりの規模で開催しており、評価できる。

愛媛県立西条高等学校（管理機関：愛媛県教育委員会）【1期3年目】の
中間評価結果について

1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制，成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・SSH活動が学習意欲の向上につながっており，評価できる。成果の検証については，育てるべき資質・能力に関する評価を更に充実させることが期待される。
- ・事業の総務を担うSSH校内委員会を設置するとともに，その中核としてSSH推進ワーキンググループを置き，企画・運営を担当することとし，推進している。SSH事業の計画・実施に全ての教員が参加しており，評価できる。
- ・運営指導委員会は，よく機能している。企業関係者の参加も期待される。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・商業科を含めて，全員に相当単位の課題研究を実施しており，評価できる。
- ・「基礎科学セミナー」と課題設定の基本を身に付ける「有法子」を第1学年全員が履修することで，理数系課題研究の基礎・基本の定着を図っており，評価できる。
- ・課題研究の評価を模擬テストと関連付けることについては，模擬テストが求める資質・能力と課題研究が求める資質・能力の検証が望まれる。
- ・作成した教材のブラッシュアップを図るとともに，他校での実践結果のフィードバックを受けるなど，取組を更に広げていくことが求められる。
- ・第1学年の生徒が，第2学年の「マルチサイエンスⅠ」の中間発表会に参加して研究や発表方法を学んだり，第1学年の「有法子」の「プレ課題研究」の校内発表会で第2学年からアドバイスをもらったりしている。また，SSH研究成果報告会も第1・2学年が全員参加しており，成果の共有を図っている点が評価できる。
- ・指導が丁寧に行われている。次の段階として生徒主体にすることが期待される。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・「有法子」，「マルチサイエンスⅠ」，「マルチサイエンスⅡ」に大半の教員が関

わることでノウハウを教員が学び、共通理解を深める指導体制は、教員の意識も変え、指導力向上に結び付いており、評価できる。

- ・「マルチサイエンスⅠ」では、1グループにつき一人の教員が指導する体制を構築しており、手厚い支援を行っている点が評価できる。
- ・教員の負担の軽減についての検討も期待される。
- ・授業相互参観週間で他教科の指導を学ぶとともに、先進校の視察を目的意識を持って実施しており、指導力の向上に努めている点が評価できる。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・高等専門学校との連携協定の締結や西条市役所、愛媛県総合科学博物館等との連携が行われ、課題研究の質の向上につながっている点が評価できる。
- ・「マルチサイエンスⅡ」で、国際文理科を対象に、研究概要の英語での発表を実施するなど、英語力の向上につながっている。
- ・理系部活動が4部設置されており、物理チャレンジ、日本学生科学賞の県大会等で優秀な成績をおさめており、評価できる。様々なコンテストに積極的に参加することは、生徒の意欲の喚起や、SSH事業の活性化につながっていると思われる。
- ・理数系部活動の部員が、中学生の体験授業でも取組を発表しており、評価できる。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・教員間で4月当初のSSH研修会で意識の統一を図ったり、前年度の運営を継承するために第1学年の担任、副担任を次の年も一部残したりする工夫をしており、評価できる。また、課題研究の運営では教科代表者会を開催し足並みをそろえている。
- ・ホームページも更新し、SSH専用サイトを立ち上げた点が評価できる。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・理数教育の充実のために教員1名を加配している。
- ・高大連携についての協定を教育委員会が結んでおり、評価できる。
- ・えひめサイエンスリーダースキルアッププログラム事業で、SSH指定校以外の教員を含め、課題研究に関する指導力向上を図っており、評価できる。「理数探究基礎」や「理数探究」の開設等、課題研究の充実につながっていくことが期待される。
- ・えひめスーパースクールコンソーシアムは、かなりの規模で開催しており、評価できる。

長崎県立大村高等学校（管理機関：長崎県教育委員会）【I期3年目】の
中間評価結果について

1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制，成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・現状では外部連携の進捗を阻害する要因も多いが，代替案も検討・実行されていて成果も期待できる。
- ・I期目として良い取組をしており，事業が順調に進められている。特に、「科学基礎」の取組や，地域の教育資源を活用した連携は，評価できる。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響はあったものの，おおむね研究計画通りに進んでいるものと思われる。ただし，目標1に示された「汎理工的に自然現象を認識し探究する力の育成」は，カリキュラム開発が途上であり，一層の進展が望まれる。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・I期目の指定校として，3年間を通した課題研究等が進められており，評価できる。
- ・「科学基礎」及び「SS探究」の内容は生徒に身に付けさせたい能力が明確で，評価できる。
- ・全ての学科の第1学年全員が「SS探究I」を履修していることの成果は継続的に検証することが望まれる。
- ・理数探究への接続性を意識しており，評価できる。
- ・家政科第3学年の「家庭科課題研究」には特色があり，科学的に扱う手法開発に期待が持てる。
- ・通常の理科の授業においても，探究的な学習過程を取り入れることができているようである。様々な形で他教科にも良い影響を及ぼしていると考えられる。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・課題探究を全常勤教員で指導する体制も評価される。
- ・「科学基礎」におけるTTは，教材開発と生徒の自ら考える力の向上に期待が持て

る。

- ・教師の研修について、例えば、授業を互見する機会を増やすなど、お互いの授業力の向上を図る取組が求められる。
- ・全校的な取組となっていることで、教科を超えて連携授業を実施するなど、意欲的な取組が見られる。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・インターネットの活用等の工夫による外部連携・国際連携の充実が期待される。
- ・地域連携の取組は、データ等が行政機関頼りになる場合があるなどの懸念点も考えられるが、科学的視点から分析・評価・提言を行う活動は評価されると考えられる。例えば、役割分担を明確化するプロセスを経るといった工夫が望まれる。
- ・離島の高等学校との連携など外部との協力体制が整いつつあることは評価できる。
- ・大村市周辺の企業等との連携は順調に進んでいるものと思われる。今後も地域との連携の継続・発展が期待される。
- ・部活動の支援策も実行されている。指導や助言の体制の強化等によって一層の部員数増を望むことができると期待される。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・学校内では、おおむね研究成果の継承が図られているものと思われる。
- ・成果の普及に関しては、より積極的に取り組むことが期待される。
- ・教師の実践発表や課題探究発表会等を行っている。ただし、例えば、高校間交流、中学生や中学校教員への啓発等、更なる工夫が望まれる。
- ・「科学基礎」は、探究の過程をしっかりと踏まえて内容を構成しており、今後、他校の参考となる良い取組である。積極的に外部に情報発信していくことが期待される。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・教員の加配や県教育委員会と地域の大学との連携協定等は、評価できる。
- ・SSHの研究成果の水平展開と活用を支援する取組の強化が望まれる。
- ・SSHの指定を受けている3校の連携を図る取組は、評価できる。特に、サイエンスキャンプは、他地域にも参考となる取組だと考えられる。

長崎県立長崎南高等学校（管理機関：長崎県教育委員会）【Ⅱ期3年目】の
中間評価結果について

1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制，成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・運営委員会の運営と指摘の事業への反映は，機能しており，評価できる。
- ・普通科の高校として，順調に事業を進めている。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・理科4領域を融合した「総合環境科学」の開発成果に注目しており，今後も一層の開発の進展が期待される。特に，県内他校で実践ができるレベルまで精度を上げることが期待される。
- ・「生物基礎」を大きく増単しているが，「生物」との一層の連携を考えると望まれる。
- ・「SSH トレーニングⅠ」は，研究目的に合わせた目的の明確な内容構成になっていて，生徒の伸びや，その後の探究活動への影響が評価しやすいと考えられる。PDCAを継続してワークシートの完成度と活用利便性の向上を図ることが期待される。
- ・「SSH トレーニングⅠ（Ⅱ，Ⅲ）」に加えて，M-STEPの作成など，事業の内容を充実させるための具体的な取組は，評価できる。
- ・文系生徒の課題研究について，成果が着実にできているか，吟味することが望まれる。
- ・科学＝理科という捉えがあるようである。もう少し概念を拡大すると良いのではないか。
- ・「SSH トレーニング」で開発した「ワークシート」の活用には特色があり，研究の深化が望まれる。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・学校全体の教師の共通理解と各自の指導力の一層の向上を図るためには，お互いの指導力を評価する仕組みについて，更なる工夫と実践が望まれる。

- ・全校体制が確立しているとのことなので、今後も継続することが期待される。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・「未来デザインスクール」に関しては、生徒がしっかり目的意識を持って参加できるような動機付けは、どう図られているのか。
- ・教育課程外での活動であるが、ベトナムやタイとの交流など、国際性を含む取組もなされており、評価できる。
- ・生徒の活動から「簡易組織培養法の開発」のような汎用性に優れたノウハウを含む技術開発成果が出ており、評価できる。
- ・科学部活動と課題研究を結び付けて探究の深化を図りたい生徒の支援策が強化されることも望まれる。
- ・理数系部活動について、今後、参加する生徒が増えるような取組が期待される。
- ・市民講座など地域への働きかけも行っていることは、評価できる。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・M-STEPなどの成果を積極的に公開している点は、評価できる。
- ・地道に成果の普及を検討しているとみられる。学校外への発信を一層心がけることが期待される。
- ・新転任教員への課題研究の指導方法の継承は、積極的に継続することが望まれる。さらに、例えば、新転任教員と継続して勤務している教員の2名で1つの班を指導することも考えられるのではないか。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・長崎地域と県央地域にはSSH指定校はあるが、学校数の多い県北地域も含めて他地域に指定校はない。県全体での理数教育推進の戦略が望まれる。
- ・SSH研究成果物の水平展開と活用を支援する取組の強化も望まれる。
- ・「総合環境科学」の開発について、県内の他校への普及も考えている。そのような視点からも管理機関の指導が期待される。

熊本県立宇土中学校・宇土高等学校（管理機関：熊本県教育委員会）【Ⅱ期3年目】の
中間評価結果について

1 中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成がおおむね可能と判断されるものの、併せて取組改善の努力も求められる。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制，成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容が十分達成されている】

- ・各校務分掌の視点から生徒を支援できるようになっている。
- ・中高一貫校として全校体制での充実したSSHの活動を行っている。
- ・新型コロナウイルスの感染拡大への迅速な対応を可能にした学習管理システムの活用は，評価できる。
- ・SSHの成果は，量的調査と質的調査に分け，様々な指標から，生徒及び教師の変容の分析に取り組んでいる。ただし，教師の意識の変容は，必ずしも十分に測定できていないのではないかと、吟味することが望まれる。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容が十分達成されている】

- ・「ロジックアセスメント」や「問いを作る授業」など，特色ある研究計画を着実に進めており，評価できる。
- ・授業で創られた探究の「問い」の一覧の活用は，評価できる。
- ・SS 課題研究の指導方法を類型化したことも，他校の参考になると思われる。
- ・ロジックリサーチやプレ課題研究など，探究的な学習活動に係る取組が積極的に行われており，評価できる。
- ・第1学年にテーマ設定を2回トレーニングするシステムは評価できる。
- ・年間を通して，診断的評価，形成的評価，総括的評価の流れで評価計画を立てている。そのための手法として，ルーブリックやチェックリストなどを開発している。
- ・探究のためのガイドブック等を開発している。ロジックガイドブックの有用性について，GSコースの低評価の原因は何か，吟味することが望まれる。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容が十分達成されている】

- ・校長のリーダーシップの下，特色ある科目等と連動した全校的な指導体制が見られ

- る。各学年・各コースの探究活動を支援するための全校体制が構築されている。
- ・ トップ支援型とボトムアップ型の双方の充実を図るよう研究主任配置と学年を中心とした運営を進める全校体制を構築しており，評価できる。
 - ・ 教科と UTO-LOGIC との関連を高める授業研究と職員研修を精力的に実施している。3人一組の教科を越えた授業研究は，評価できる。
 - ・ 生徒1人につき1テーマを設定するロジックリサーチを全教員で分担して個別指導する体制を構築しており，評価できる。
 - ・ 全教科で探究をベースにした取組を行っており，教員の連携体制も良く構築している。教科の視点を探究の指導で生かすワークショップ型職員研修は，評価できる。
 - ・ 各種学会参加と課題研究担当者会議(週時定)での共有で教員の力量を高めている。
 - ・ SS コースと GS コースの両方が組み込まれた指導体制がとられ，企業や大学，研究機関との連携が積極的に行われている。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容が十分達成されている】

- ・ 国際発表経験者，学会発表経験者が相当数にのぼっており，高度な課題研究を進めたことは，評価できる。
- ・ GS 課題研究では，市役所各課との連携などによって，効果を上げている。国内外の科学技術系コンテストに積極的に参加し，多数受賞しており，評価できる。
- ・ ウトウトタイムやペーパーブリッジコンテストなど，自校独自の探究活動を産学官と連携しながら実施しており，評価できる。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・ ロジックスーパープレゼンテーション開催は，評価できる。
- ・ 公開授業に多くの教育関係者を受け入れており，評価できる。
- ・ 多数の教育関係者の視察や，研修やセミナーの講師依頼，メディアの取材などを通して，研究成果の普及と発信に積極的に取り組んでいる。
- ・ 多くの参加者を得た探究の「問い」を創る授業公開及び授業研究会は，評価できる。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・ 理数系教員を1名加配し，かつ，理数系で指導力が高い教員，科学を専門的に学んだ ALT 等を重点的に配置していることは，評価できる。
- ・ 人的支援と，予算の重点配分など，ソフトとハードの面から学校を支援している。
- ・ KSH(熊本スーパーハイスクール)合同研究発表会を開催しており，評価できる。
- ・ 本校の特徴に合わせた管理機関の取組を示すことも期待される。

鹿児島県立鹿児島中央高等学校（管理機関：鹿児島県教育委員会）【1期3年目】の
中間評価結果について

1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制，成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容が十分達成されている】

- ・校務分掌に SSH 業務を担当する部を設置し，その中を「企画係」と「校内事業係」に分けて業務を分担して推進している。体制を改善し，組織的な運営ができています。
- ・成果の検証で SSH 指定前のデータと比較できる調査を実施していることは，SSH の成果の実証につながるものであり，評価できる。
- ・2年次の課題研究はスタートが遅れ，3年次は新型コロナウイルスの感染拡大の影響で変更・延期・中止された事業もある。第I期として試行錯誤もあったようだが，全体的に見て適切に進められている。
- ・SSHに関する各行事の終了後のアンケート調査等で状況を把握し，「SSH推進企画会」で分析・改善策の提案を行うなど，学校全体で取り組む体制となっている。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・課題研究の対象を普通科全員として，その推進のために，段階を踏んで関係する学校設定科目を第1学年から第3学年まで設置し，毎年充実・改善を図っており，評価できる。今年度も変更をしっかりと加えて対応している。
- ・「探究基礎」は，「科学と人間生活」，「社会と情報」の代替科目として各科目の目標が達せられているか，数学科や情報科（報告書には記載が見られない。）の教員が十分に関わっているか，吟味して，必要な改善を行うことが求められる。
- ・「探究のいろは」は普通科が文理の区分けなく探究活動を行う上で評価できるが，著作権者が個人の教諭である点は好ましくなく，改善が必要である。また，資料中の「マインドマップ」は商標登録されており，問題がないか確認の上，適切な措置を講じる必要がある。
- ・「課題研究は教科で学んだことを実践する場であり，教科は課題研究を行うときに足りない知識を補う場」という表現が適切であるか，吟味することが望まれる。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・第1学年の「探究基礎」は理科・情報教員の2人指導体制、「探究Ⅰ」は担任・副担任の2人指導体制とし、第2・3学年の「探究Ⅱ・Ⅲ」では数グループごとに一人の教員がコーディネーターとして担当する体制とし、大学等の研究機関の協力も得て、生徒が主体的に課題研究を進めることができる指導体制をとっている。
- ・探究活動の情報交換を、担任会、副担任会、学年会で定期的に行い、評価できる。
- ・先進校視察や他のSSH指定校の教師を招いての探究活動のワークショップ等で教師の意識を高めている。SSHに関する職員研修会を年2回実施し、意識を深めている。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・部活動の生徒数が少ないのは、どのような理由か、吟味することが望まれる。
- ・「探究Ⅰ」の「開眼ゼミ」は、第1学年が早期に多様な学問に触れる機会となり、その後の課題研究の指導にもつながると考えられる。
- ・県内のSSH指定校5校が「鹿児島県SSH交流フェスタ」を開催し、自校の課題研究の向上につなげており、生徒・教師ともに良い影響を受ける場としている。
- ・「探究Ⅱ・Ⅲ」では、大学の研究室で研究指導を受ける研究班、企業や公共機関と連携して進める研究班もあり、外部連携を取り入れた探究活動を実施している。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・課題研究の論文集、研究開発実施報告書、「探究のいろは」等をSSH推進室で保管・管理して成果を継承している。SSHのデータは、校内サーバーでも共有している。
- ・SSH専用のホームページを立ち上げ、「SSHニュース」を月1回発行している。
- ・課題研究についての教員間の継承については、更なる工夫・充実が求められる。
- ・報告書には、授業展開や教員配置、評価方法等、もう少し詳述が望まれる。
- ・県内高校の先生方を集めた「探究のいろは」に関するワークショップを2日間の日程で開催したことは、評価できる。一層の普及が期待される。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・科学的な知識を有するALTの配置をしていることは、評価できる。
- ・SSH指定校を支援する指導主事を2人体制とし、きめ細かく指導を行っている。
- ・九州全域の高校への波及効果や連携等の取組を検討することが期待される。
- ・本校ホームページの作成や開発教材の情報発信等を支援している。
- ・SSH指定校への支援として、県総合教育センターと連携している点は評価できる。

鹿児島県立国分高等学校（管理機関：鹿児島県教育委員会）【1期3年目】の
中間評価結果について

1 中間評価の結果

優れた取組状況であり，研究開発のねらいの達成が見込まれ，更なる発展が期待される。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制，成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容が十分達成されていると思われるもののうち，特に程度が高い】

- ・探究活動に積極的な生徒が非常に多い。
- ・業務分担の見直しによる全体としての時間外勤務の減少は，働き方改革でも高く評価できる。秘訣を示すことが期待される。
- ・全校体制により職員の生徒観や教材観も大きく変容したことは，評価できる。
- ・新型コロナウイルスの感染拡大の影響による海外研修の中止の代替等として，留学生を招聘した研修や，Web会議システムを活用した職員研修や発表会，県外の大学教員による講義を実施しており，評価できる。
- ・SSH推進部を設置してSSH事業を進め，SSH委員会を設置して進捗状況を管理・点検している。また，理数科教員の理数科運営委員会，生徒レベルでのSSH生徒委員会を組織している。SSH事業を全校体制で推進・管理しており，評価できる。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容が十分達成されていると思われるもののうち，特に程度が高い】

- ・理数科と普通科の課題研究が有機的に無理なく連携しており，評価できる。
- ・各教科で探究型授業が広く取り入れられており，SSH事業の優れた成果だと考える。
- ・経年的に深化・拡充するカリキュラム開発を行い，設定科目に工夫が見られる。
- ・企画ごとのルーブリック評価をもとに，内容，時期等の見直し，改善をしている。
- ・女子生徒の科学技術等に対する興味・関心を高め，ロールモデルの形成につなげるプログラムも実施されている。
- ・課題研究と国語，芸術，地理歴史・公民，英語等の教科との連携を図っている。
- ・理数科の課題研究のテーマの少なさ，物理・工学・情報系のテーマの少なさ，地域素材の偏り等を踏まえ，生徒が主体的に課題を設定しているか，検証が望まれる。
- ・5観点ルーブリックを改良し，使いやすくなっている点は評価できる。一方，各項目に科学的な要素や主体性に関する要素があまり見えず，検証が望まれる。

- ・SSH 委員会に「探究型授業検討委員会」を設置して、「問いを重視する授業改善」というテーマで協議・検討しており、評価できる。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されていると思われるもののうち、特に程度が高い】

- ・運用推進者と探究推進者を重複させていないことも成功しているが、この有機的な連携はどう作るのか、明らかにして示すことが期待される。
- ・理数科指導者による基礎講座を実施し、探究の意義等を全職員で共有したり、SSH 指定校の先進校を多く視察したりするなど、指導力向上の取組を実施している。
- ・全教員が SSH の意義を理解して積極的に取り組んでおり、評価できる。ただし、カリキュラム・マネジメントは一層の取組が必要だと思われるので、吟味が望まれる。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・県内 SSH 5 校や自治体、大学、企業等とのコンソーシアムの構築について、進展が期待される。県 SSH 連絡協議会幹事校として、連携した取組を企画している。
- ・理数科サイエンス部は、3 学年の生徒が協力して主体性を持った高度な探究活動を推進し、科学系コンテスト等に積極的に参加し、優秀な成績を収めている。
- ・普通科自主ゼミでは、ジオパークの指定を目指す研究にも取り組んでいる。
- ・実験教室を小中学校で開催するなど、地域で活発に活動している。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・ルーブリックの改良による生徒の力の伸長は、他校でも可能か、検証が期待される。
- ・新型コロナウイルスの感染拡大の中で戦略的に SSH 発信活動を実施しており、中学校での高校説明会等で生徒による探究プレゼン発表等を行っている。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・理数系女子の育成の成果等について、情報発信に努めている。
- ・科学的な知識を有する ALT の配置をしていることは、評価できる。
- ・SSH 指定校を支援する指導主事を 2 人体制とし、きめ細かく指導を行っている。
- ・九州全域の高校への波及効果や連携等の取組を検討することが期待される。
- ・本校ホームページの作成や開発教材の情報発信等を支援している。
- ・SSH 指定校への支援として、県総合教育センターと連携している点は評価できる。

沖縄県立球陽高等学校・球陽中学校（管理機関：沖縄県教育委員会）【Ⅱ期3年目】の
中間評価結果について

1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制，成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・理系学科へ進学した理数科の生徒が一定程度増加しており，評価できる。
- ・新型コロナウイルスの感染拡大のための臨時休業期間中に ICT を活用したオンラインによる学習指導の体制を新しく構築したことは，評価できる。
- ・SSH を推進する体制づくりの強化に努めていることが認められる。ただし，理数科と国際英語科の連携や協働について更なる取組が望まれる。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・Ⅱ期目の取組として，国際英語科の生徒への課題研究の拡大は，評価できる。
- ・情報講座が単なるプレゼンテーションソフトの使い方の習得であることについては，改善が求められる。
- ・カリキュラム・マネジメントについては，全校体制で検討することが求められる。
- ・発表活動の評価ルーブリックとポートフォリオの開発・運用は，評価できる。
- ・「国際探究Ⅱ」の選択者を増やすためにどうするか，検討が望まれる。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり，評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・「国際探究Ⅰ」の実施に伴い，文系教科の教師へと探究活動の指導が広がったとあるが，理系の教師との協体制はどうか，具体的に示すことが望まれる。「国際探究Ⅰ」における外部有識者を招いた検討会について，外部からのアドバイスにどのような効果があるか，その理由は何か，具体的に示すことが望まれる。
- ・「SS 理数探究Ⅰ」における指導体制において，数学・理科・情報の教師がチームを作り，2，3名で指導にあたる TT 体制で授業展開を行っており，評価できる。ただし，理数科の課題研究に他教科の教師も指導に当たることとしてはどうか。
- ・「科学英語」を行うに当たって，前年度に履修した「SS 理数探究Ⅰ」等で学んだ内

容を理科と英語科の教師で共有する体制をつくっていることは、評価できる。

- ・「国際探究Ⅰ」等に科学的な観点を入れ込むために、理科や数学の教師も巻き込む体制を考えてはどうか。
- ・探究活動の指導の在り方等を学ぶ教員研修は、評価できる。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・中・高の連携企画として「SSクラブ サイエンスリーダー研修」を実施したことは、中高一貫教育校の活動として、評価できる。
- ・米国総領事館の協力や、地元の大学からの講師派遣など、科学英語教育に力を入れていることは、評価できる。
- ・部活動が活発に行われ、生徒が受賞するなど成果が生まれていることが認められる。なお一層の働きかけによる生徒自身の充実した取組が期待される。
- ・理数科の生徒数が多いにもかかわらず、国際科学オリンピックの挑戦者数が少ないのは残念であり、工夫・改善について検討が進むことが期待される。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・人事異動による新転任教員が多い中で、どうノウハウを伝えていくのか、課題を解決するための手立てについて、例えば、新転任教員を集めた教員研修を年度当初に実施するなど、検討し、実施することが望まれる。
- ・校内におけるSSH活動の広報を活発に行い、生徒や教員が多く情報を得られるようにしている。
- ・地域の小・中学校にもより成果を広げることが期待される。
- ・「球陽高校SSH探究活動シンポジウム」を開催するなど、探究活動を普及・促進させる活動を実施している。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- ・SSH担当教頭や研究主任の加配等による人的支援を行っていることは、評価できる。
- ・地域の特徴を生かして、SSH指定校を更に伸ばすことができる方法はないだろうか、吟味することが望まれる。
- ・「沖縄科学技術教育シンポジウム」等の開催は、評価できる。
- ・本校の特徴に合わせた具体的なサポートを示すことが望まれる。
- ・県教育委員会としてSSHの重要性を認識した一層の取組・支援を行うことが望まれる。また、県全域にSSHの取組の意義を積極的に示していくことが期待される。